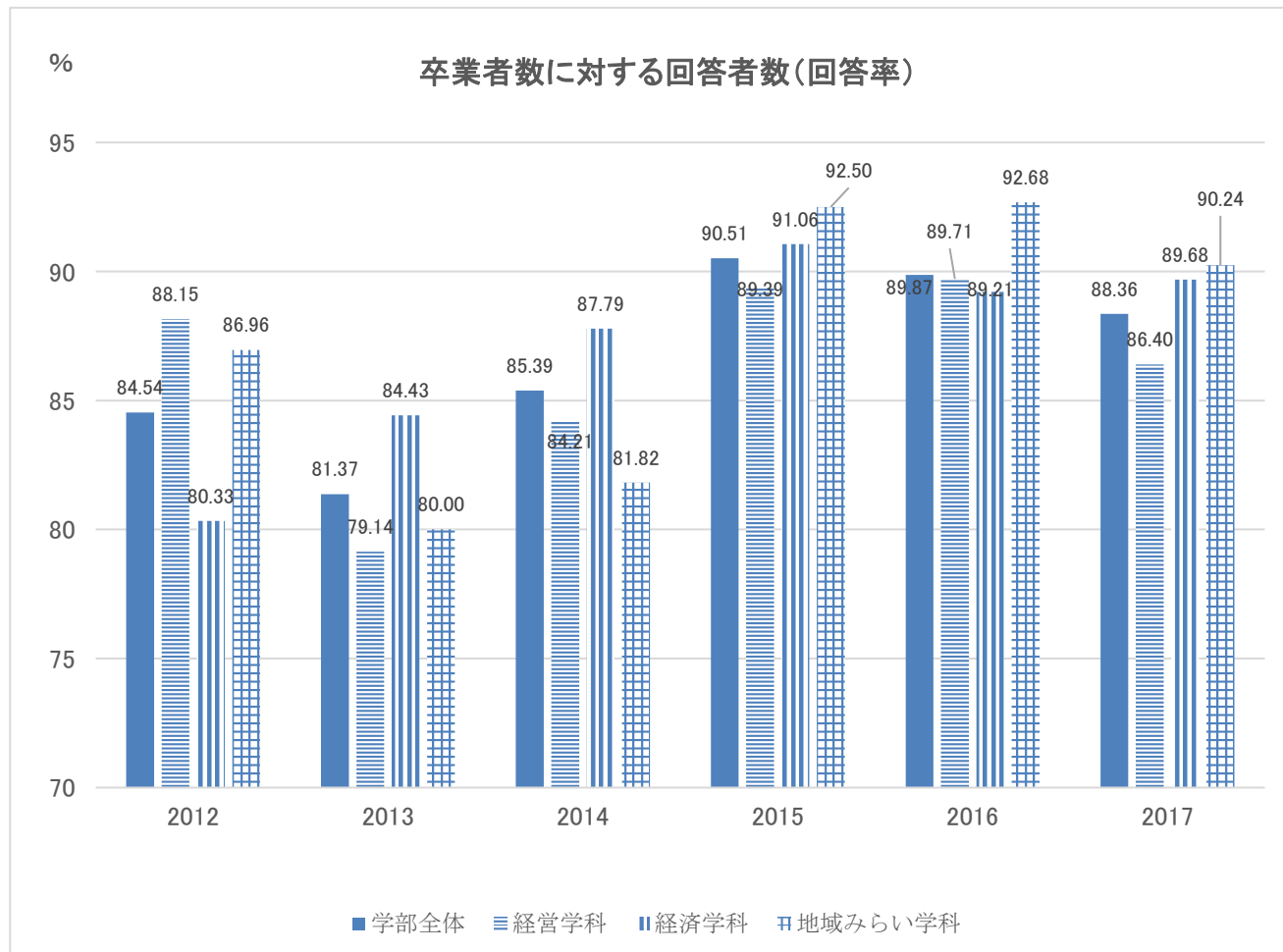


## 2017年度卒業アンケート結果に関する報告書 [2012年度～2017年度]

本アンケート結果を受けて、学生担当会議で検討を行い、大学の教育機関としての運営に資するため、とりまとめを行うこととした。

### 1. 2017年度卒業生数及び回答者数

	学部全体	経営学科	経済学科	地域みらい学科
卒業生数	292	125	126	41
回答者数	258	108	113	37
回答率	88.36%	86.40%	89.68%	90.24%



## 2. 総合的分析結果

卒業アンケートの質問内容を大幅に変更してから今回が第7回目のアンケート調査である。

これまで同様、回答の傾向に大きな変化はなく、学修面・学生生活面・キャリア形成面のいずれも概ね好意的な評価を得ている。

学修面においては、卒業者の半数以上が「専門的な知識が得られた」と回答しており、本学の教育課程に肯定的な評価がなされている。その一方で、「経営学や経済学の専門的教育」「フィールドワークや体験を重視する教育」「資格取得に結びつくような教育」の充実に対する要望が多く、より実学的・実践的な学修に対するニーズが高まっているようである。

学生生活面においては、「他人との協調性が高まった」「自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった」と回答した卒業生が多く、他者との関わりやコミュニケーションに関する点で成長したと感じているようである。学生生活に関連した設備においては、食堂・売店の充実を求める回答が半数を超えていることから、今後検討の必要があると言える。

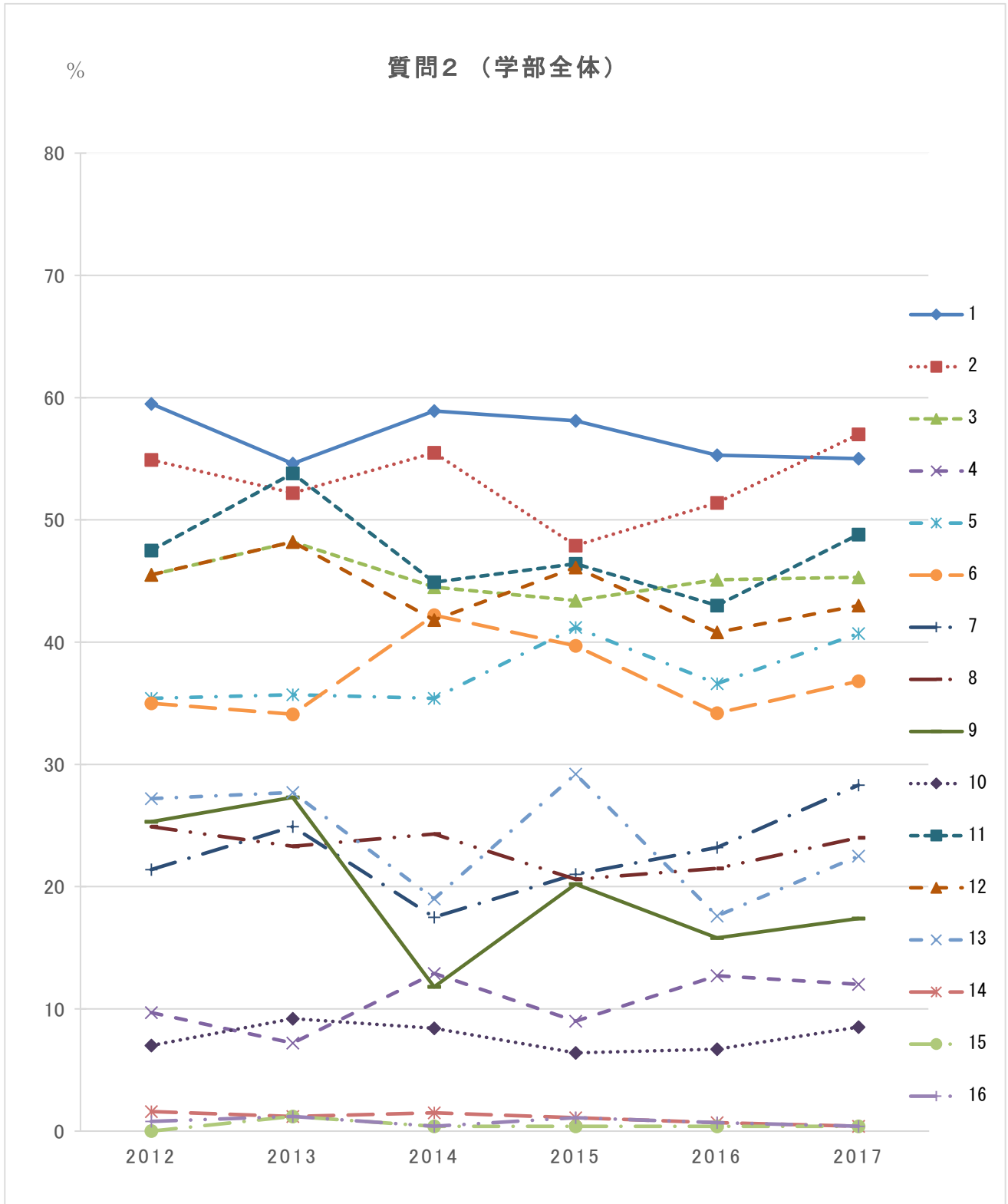
キャリア形成面においては、全般的に満足度が高く、特にキャリアセンターの相談員からのアドバイスや企業説明会については、役に立ったと感じている卒業生が多い。相談員からのアドバイスについて、役に立ったと感じている一方で、OBとの交流会やインターンシップのより一層の充実を求める回答も増えつつある。

## 3. 質問項目ごとの分析

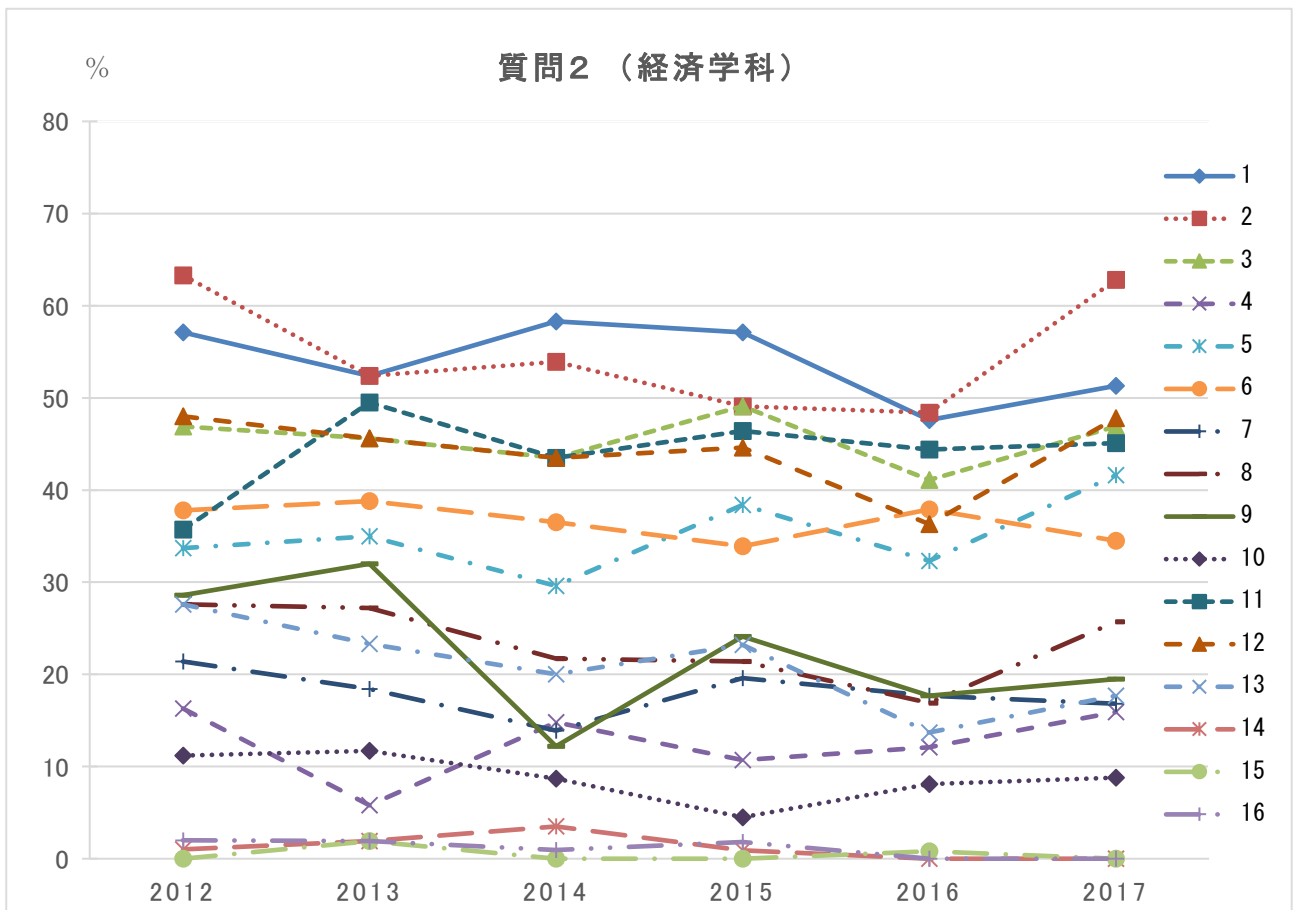
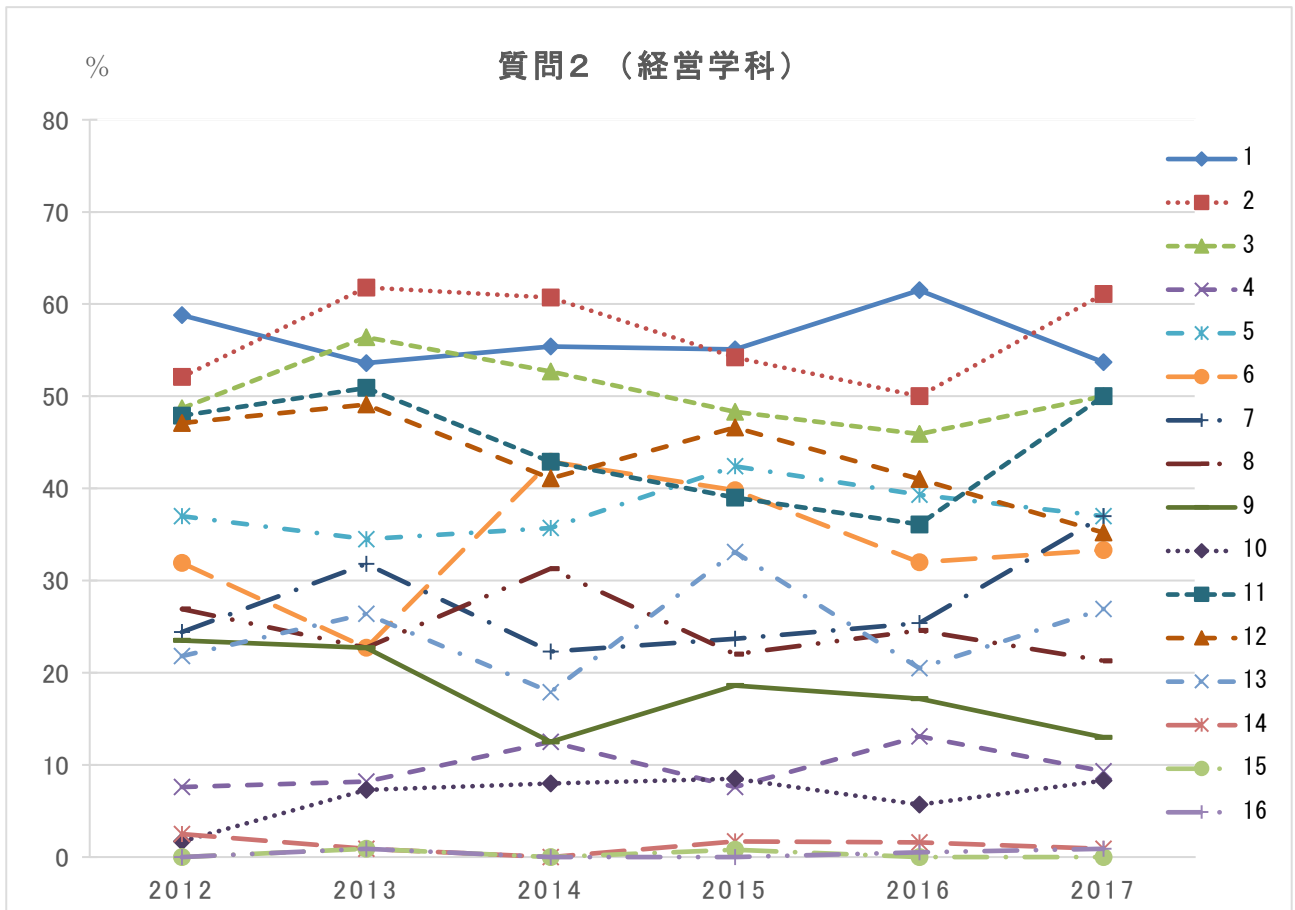
質問2 授業科目・教育方法・教育内容など、本学における学修面を振り返り、どのようなことが身についたと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

### 【選択肢】

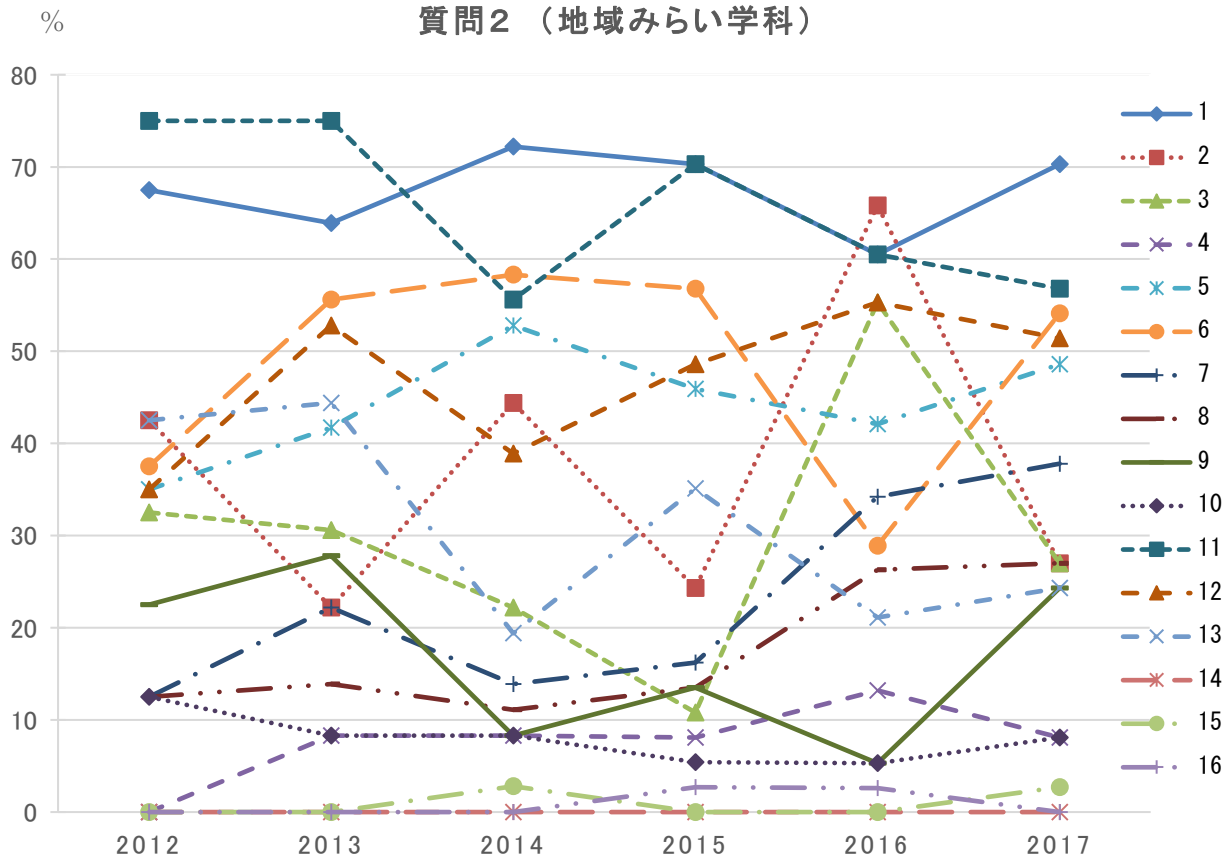
- 1：自らの頭で考えることが多くなった。
- 2：専門的な知識が得られた。
- 3：経営・経済にまたがる学際的な知識が得られた。
- 4：物事を科学的に考える能力が向上した。
- 5：物事を複眼的な視点で捉えるようになった。
- 6：問題発見・解決の能力が向上した。
- 7：職業上に役立つ知識や技術が身についた。
- 8：専門的な知識を日常生活へ関連づけられるようになった。
- 9：コンピュータなどの情報活用能力が向上した。
- 10：外国語能力が向上した。
- 11：コミュニケーション能力が向上した。
- 12：教養が身についた。
- 13：多様な文化の理解が深まった。
- 14：特に何かが身についたとは思わない。
- 15：その他
- 16：わからない。



2017年度についても、これまでの年度と同様に、「2: 専門的な知識が得られた (回答率 57.0%)」、「1: 自らの頭で考えることが多くなった (回答率 55.0%)」という回答が多く、「14: 特に何か身についたとは思わない (回答率 0.4%)」、「16: わからない (回答率 0.4%)」といった否定的な回答が少なかったことから、本学での学修成果に対して、多くの卒業生が肯定的な回答をしていると言える。



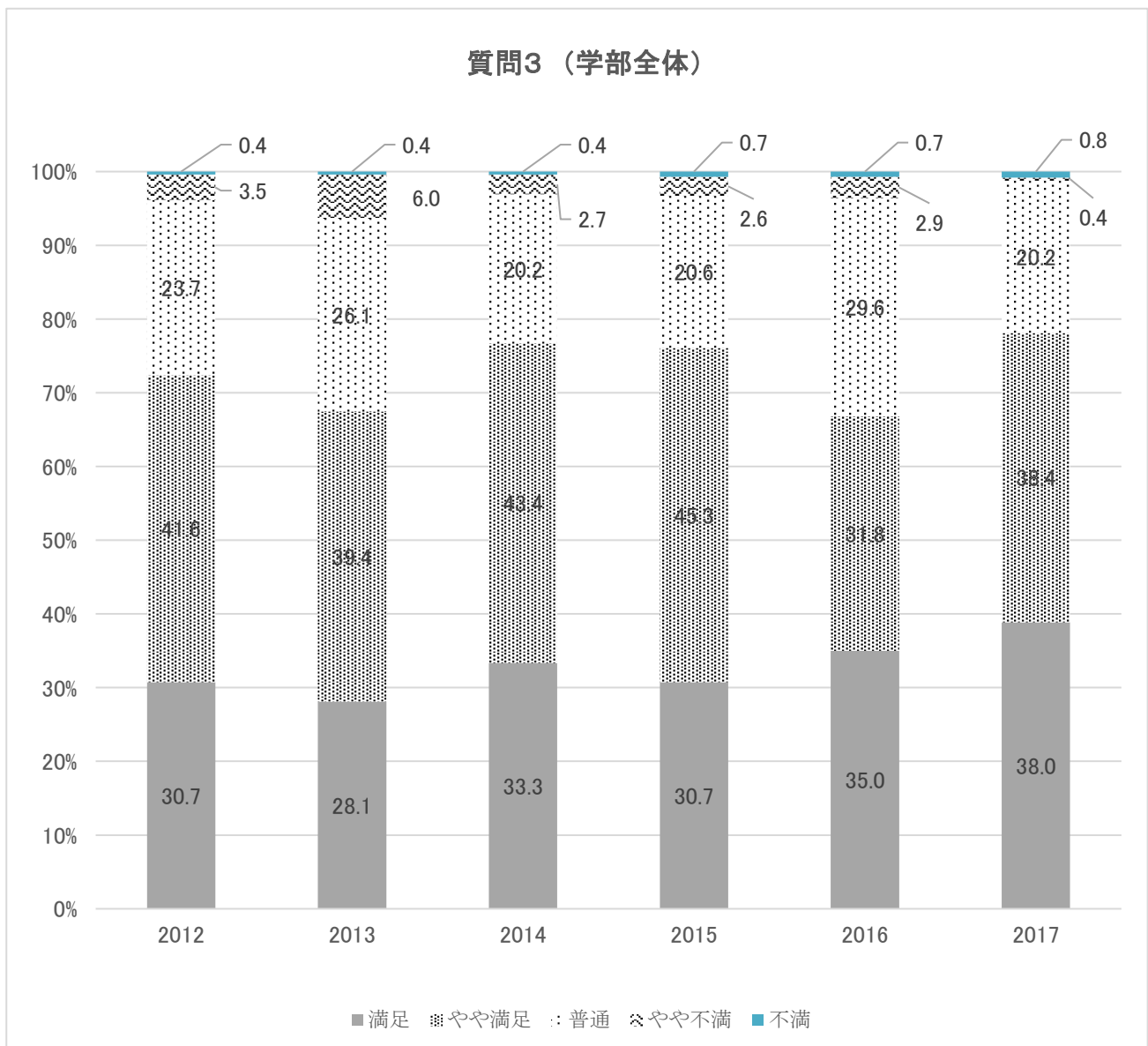
質問2 (地域みらい学科)



質問3 本学における学修面を振り返り、全般的な満足度はいかがでしたか。あてはまる箇所に○をつけてください。

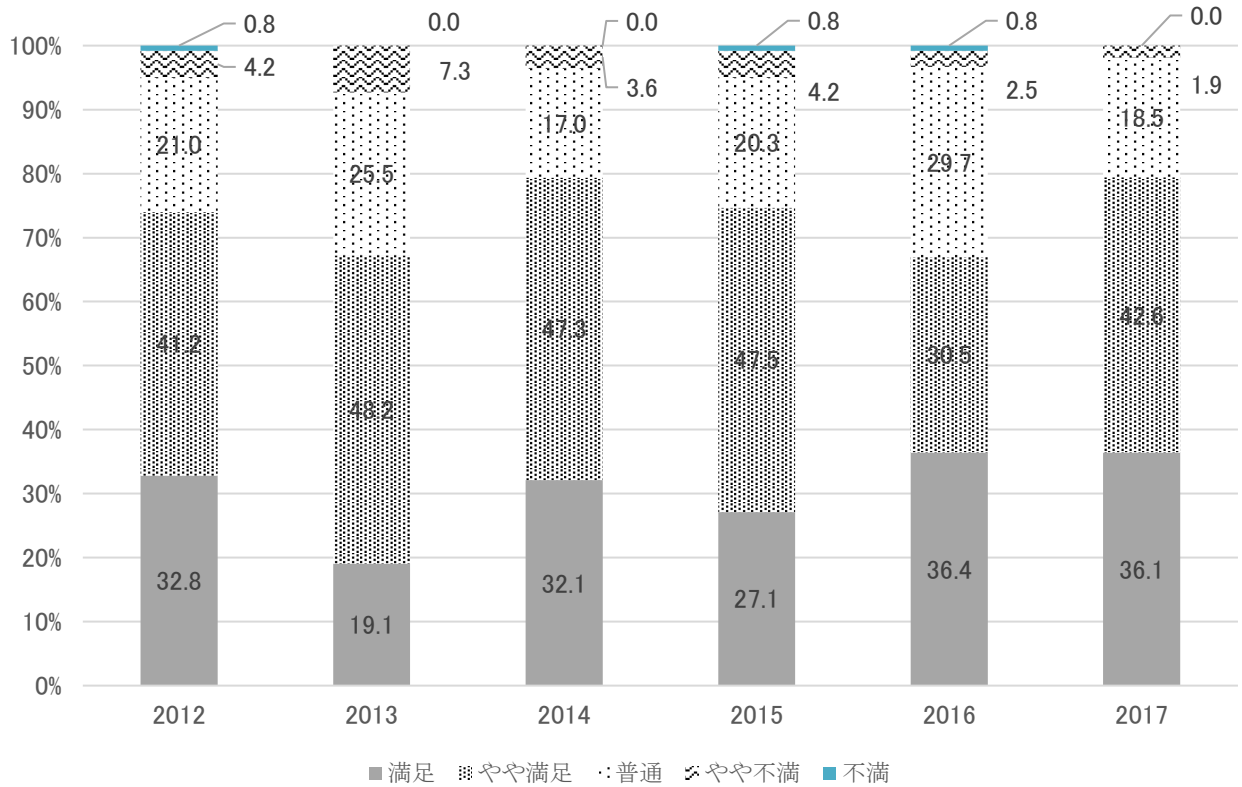
【選択肢】

- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満

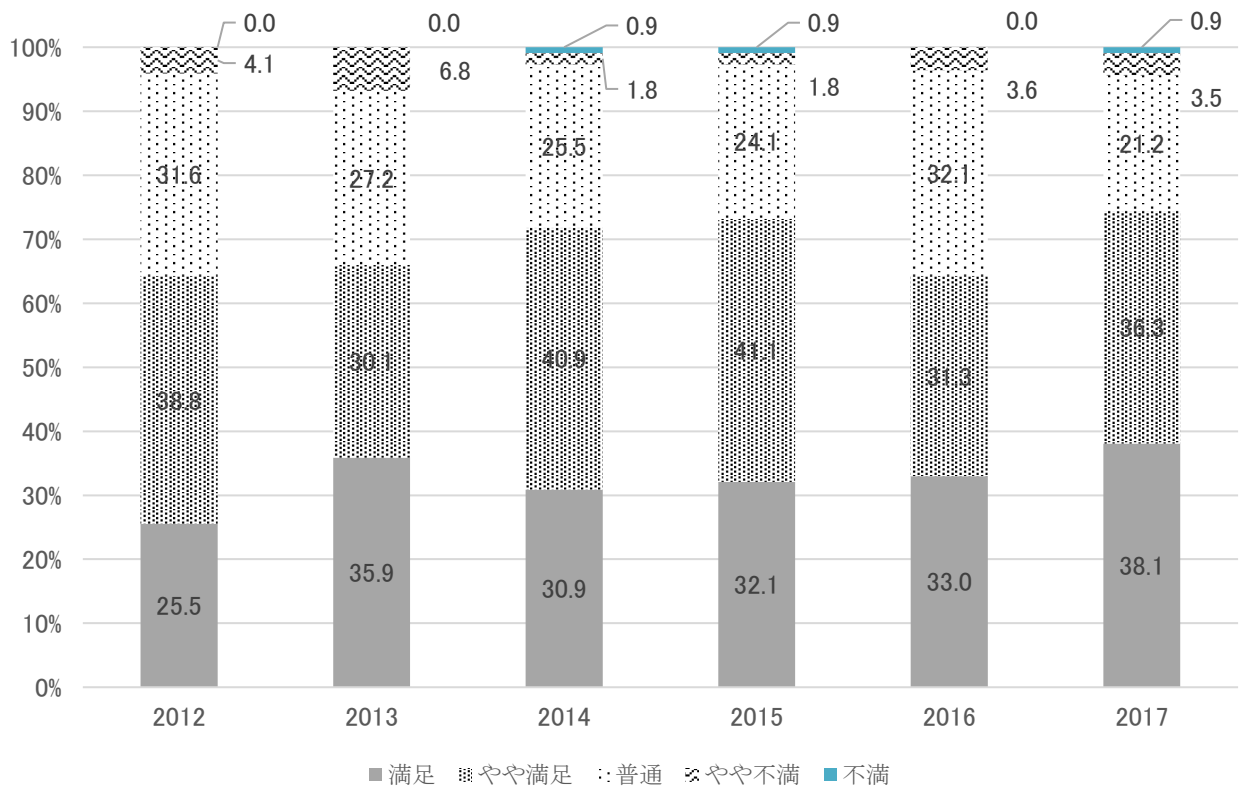


2017年度は、「満足」と回答した卒業生の割合が38.0%であり、6年間で最も高い数値となった。また、「やや満足」と回答した卒業生もあわせると76.4%であり、多くの卒業生が満足しているという良好な結果が得られた。

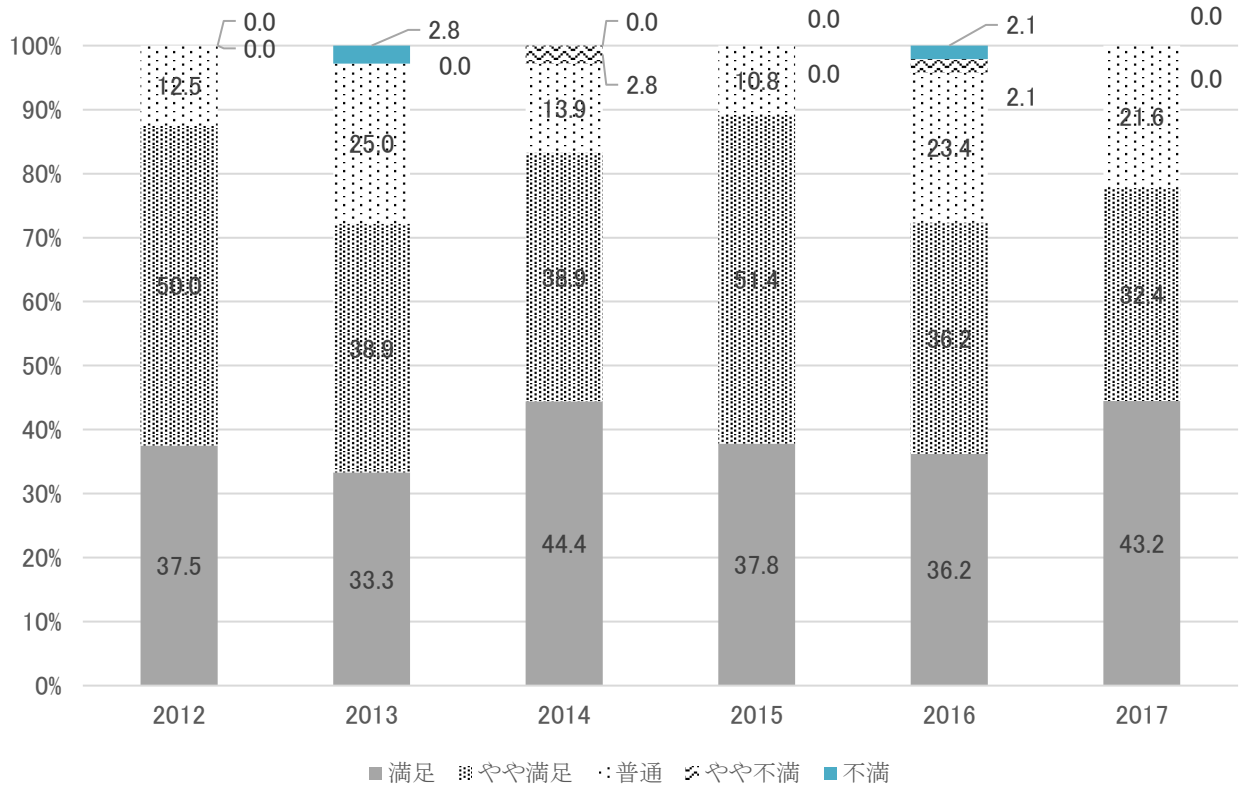
質問3（経営学科）



質問3（経済学科）



### 質問3（地域みらい学科）

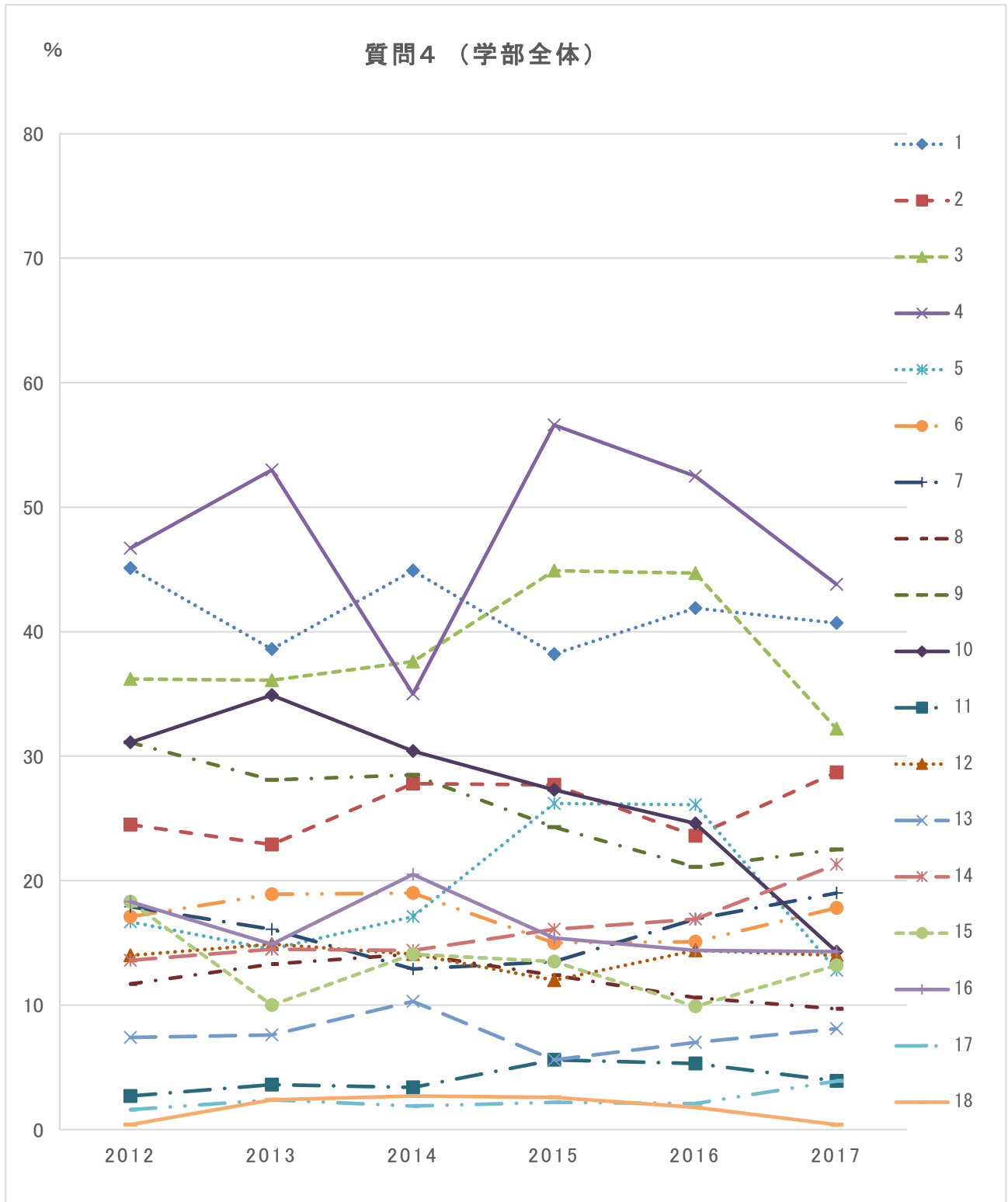




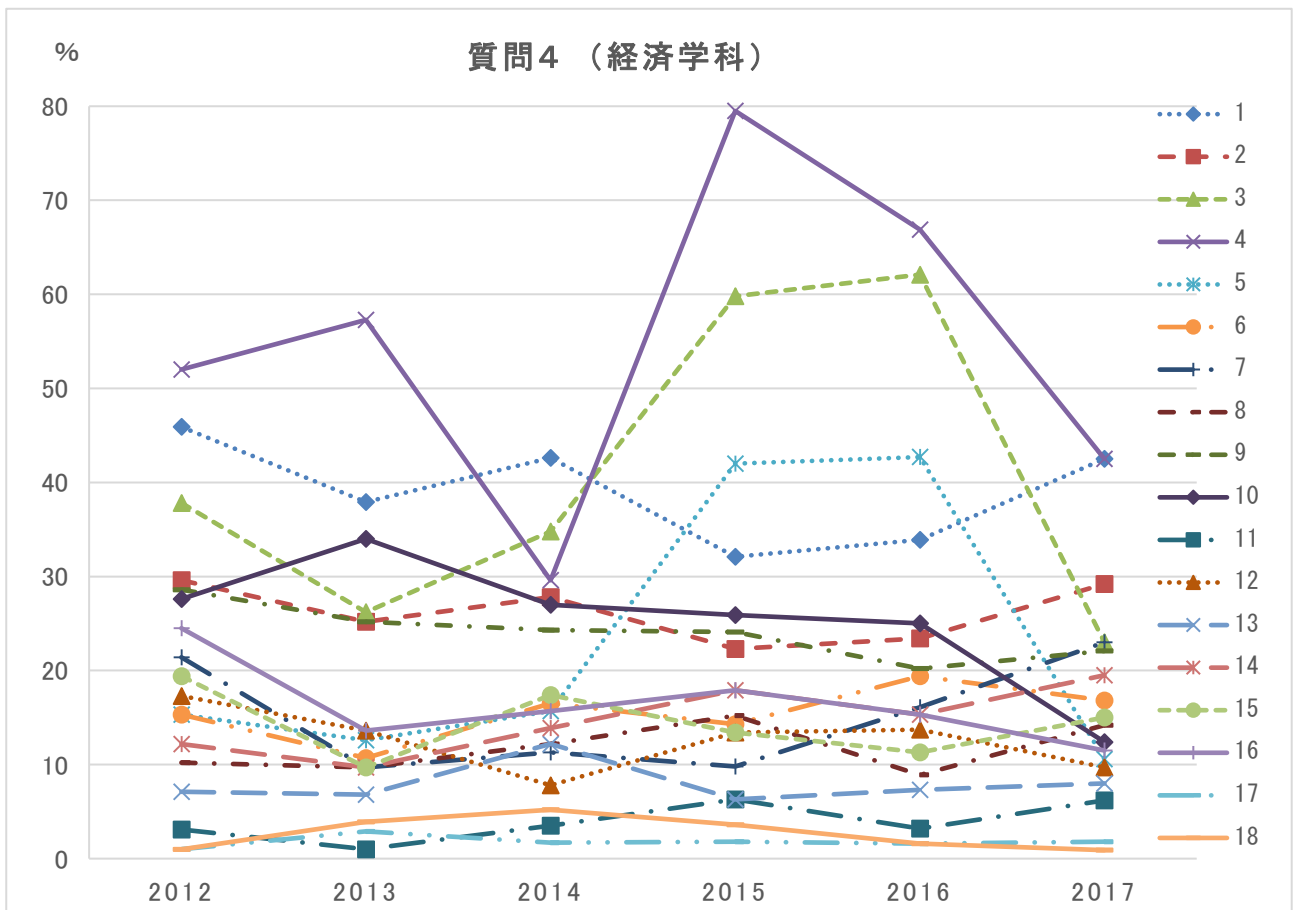
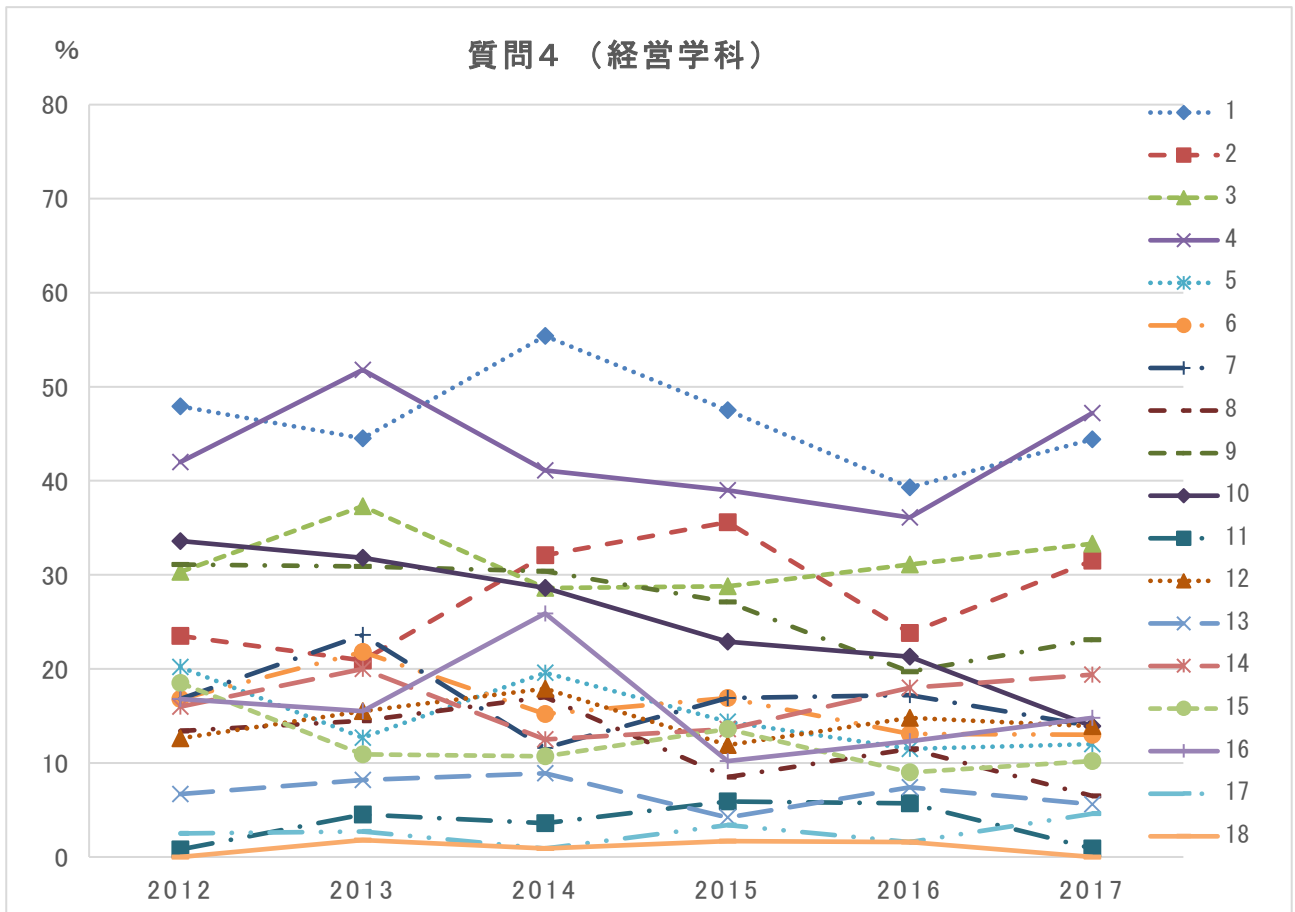
質問4 学修面および関連設備に関し、青森公立大学はどの分野を充実するのが望ましいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【選択肢】

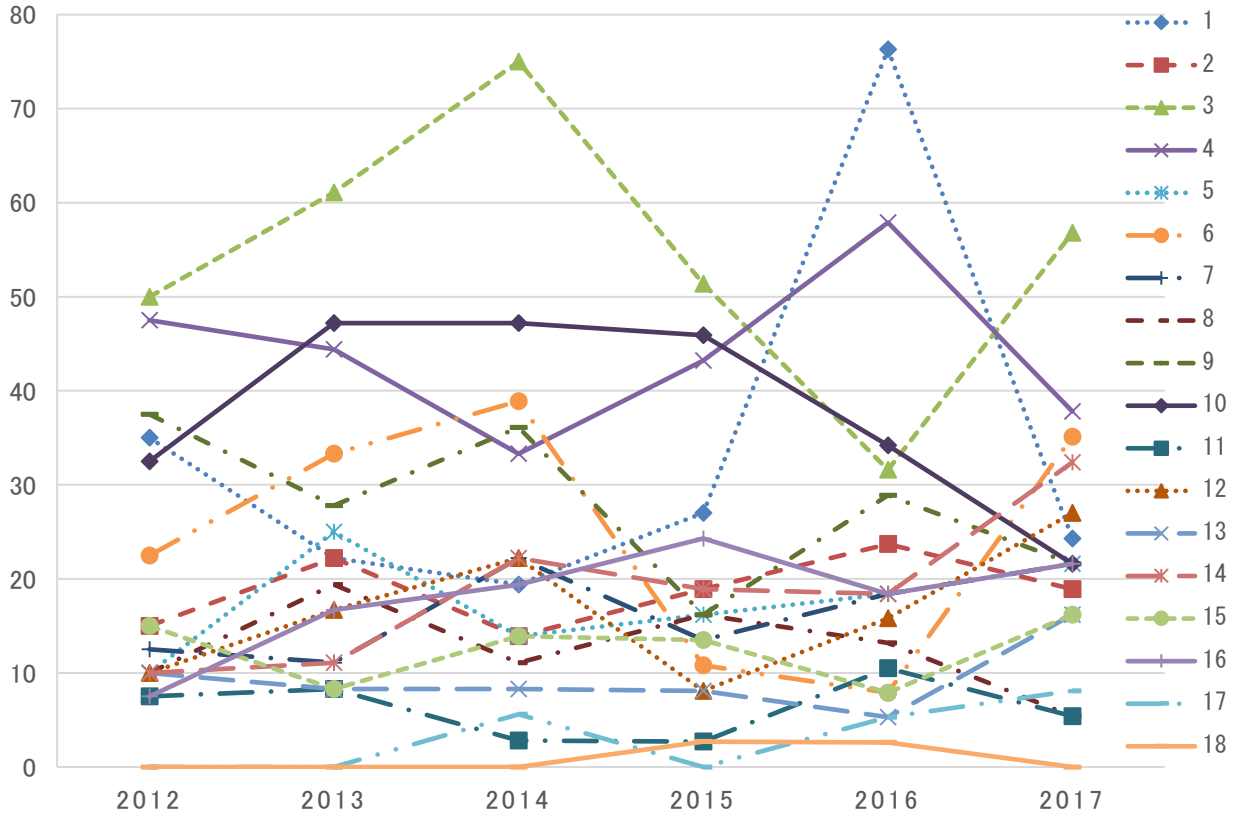
- 1：経営学や経済学の専門的教育
- 2：経営・経済にまたがる学際的な教育
- 3：フィールドワークや体験を重視する教育
- 4：資格取得に結びつくような教育
- 5：教えるべきことの厳選や徹底
- 6：少人数教育
- 7：情報教育
- 8：教養教育
- 9：外国語教育
- 10：コミュニケーション教育
- 11：リメディアル教育（高校までの復習）
- 12：履修相談など、履修関連の支援体制
- 13：学修アドバイザーなどの学修支援体制
- 14：教室やコンピュータなどの教育施設設備
- 15：図書館
- 16：掲示板やホームページなど、大学から学生への情報伝達システム
- 17：その他
- 18：わからない。



2017年度は、「4：資格取得に結びつくような教育（回答率 43.8%）」、「1：経営学や経済学の専門的  
教育（回答率 40.7%）」、「3：フィールドワークや体験を重視する教育（回答率 32.2%）」が30%を超え  
る回答であった。また、これら3つの選択肢全てにおいて、2016年度より回答する卒業生の割合が減少  
している。



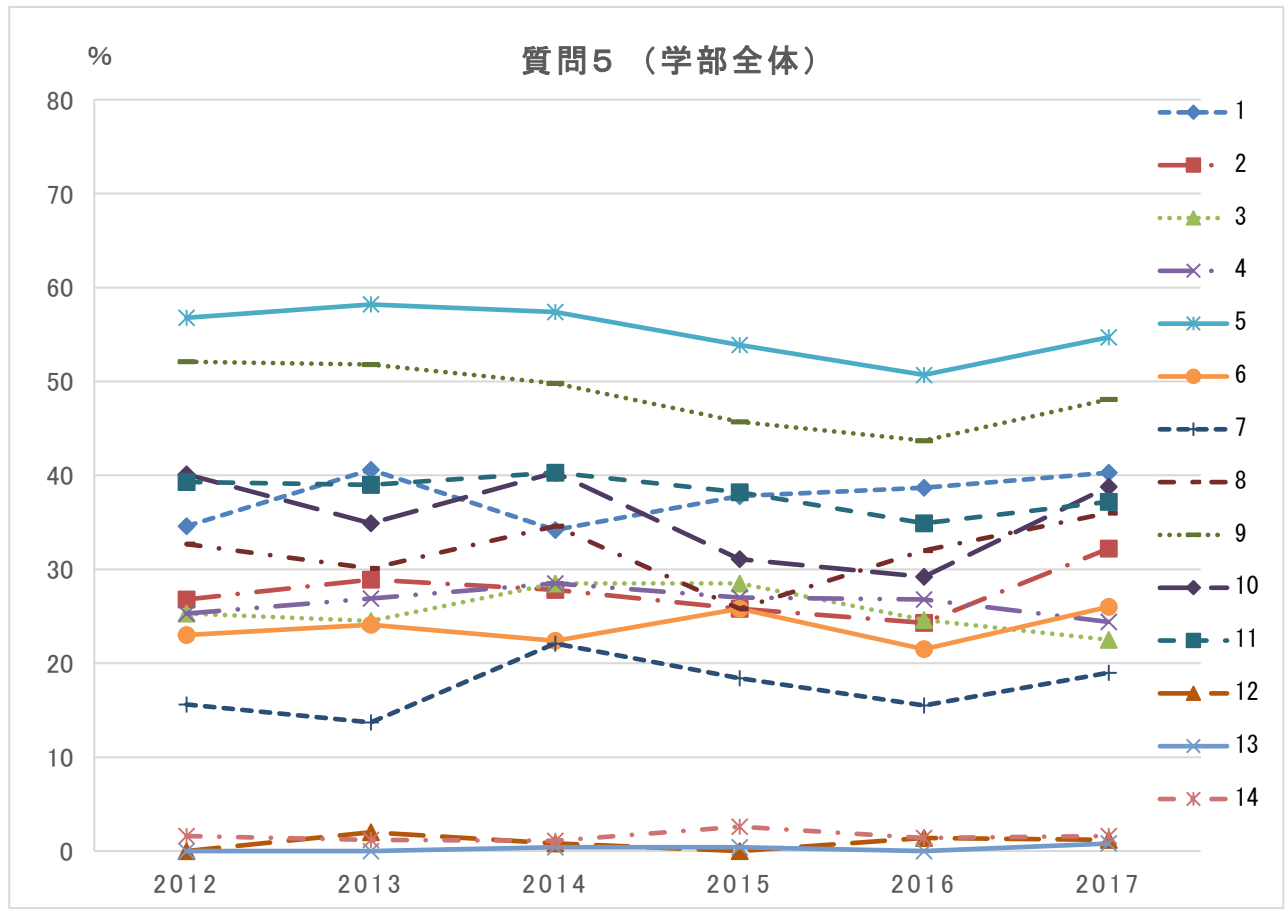
質問4 (地域みらい学科)



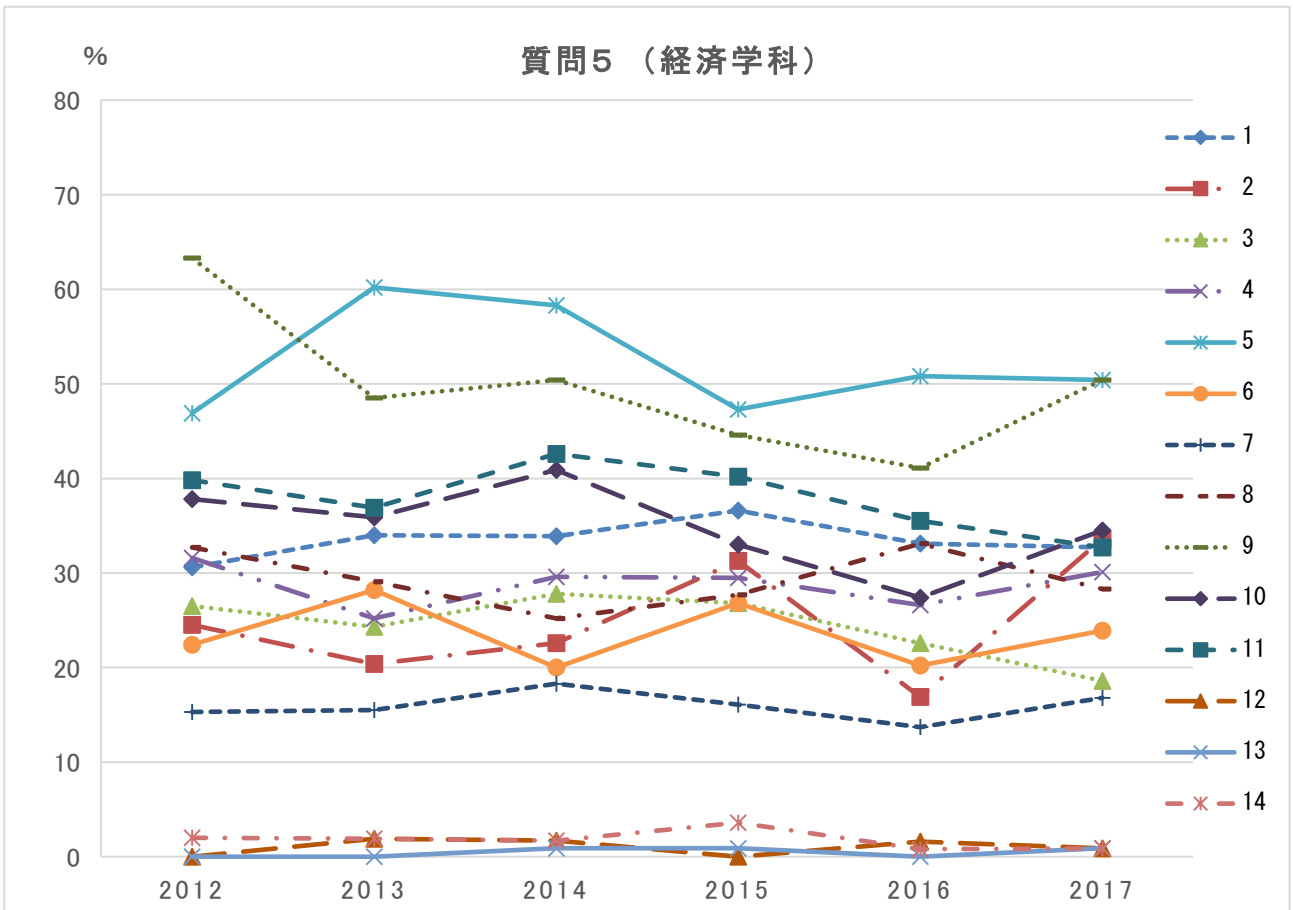
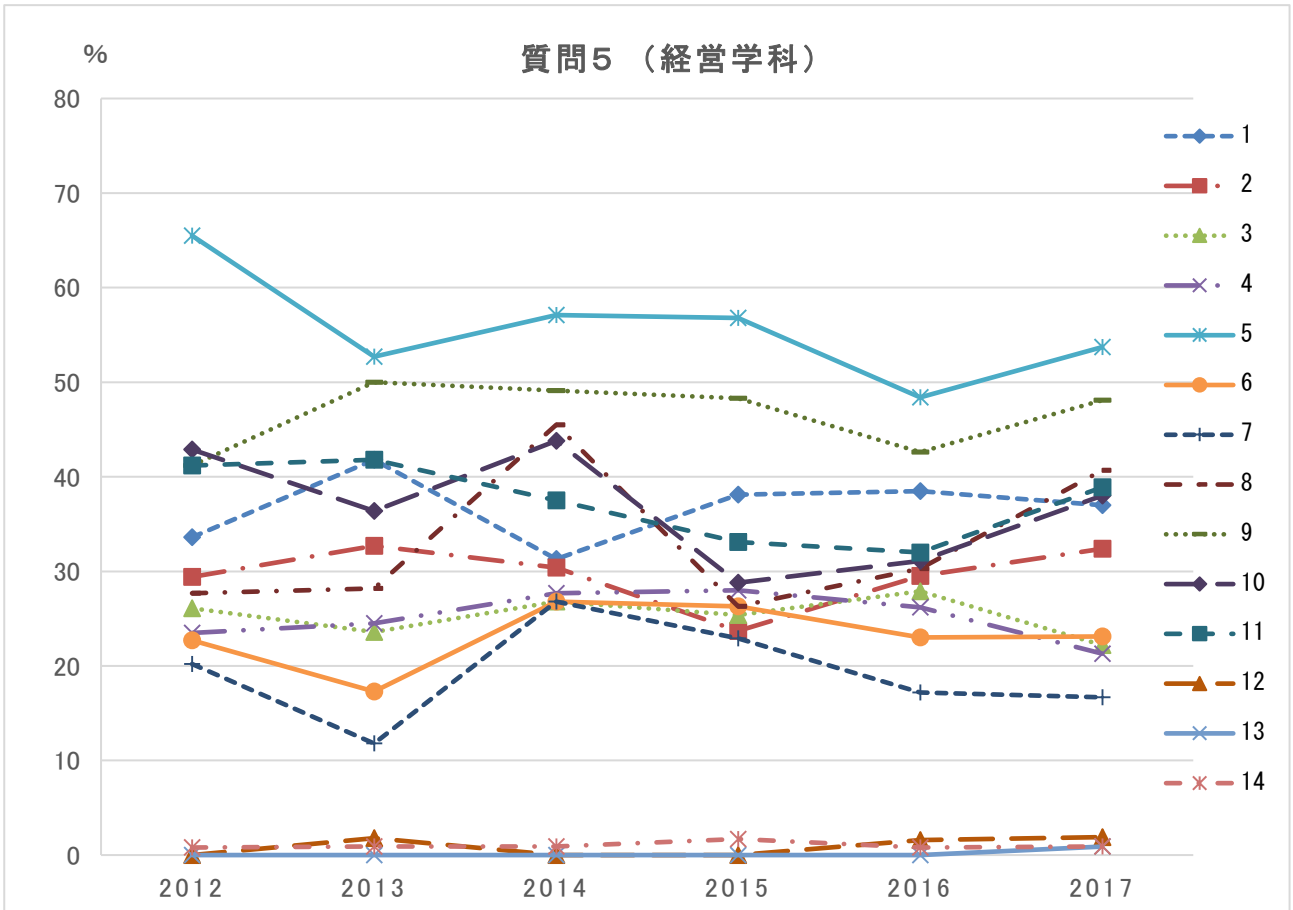
質問5 課外活動などを含め、大学での学生生活を振り返り、どのように人間的に成長したと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【選択肢】

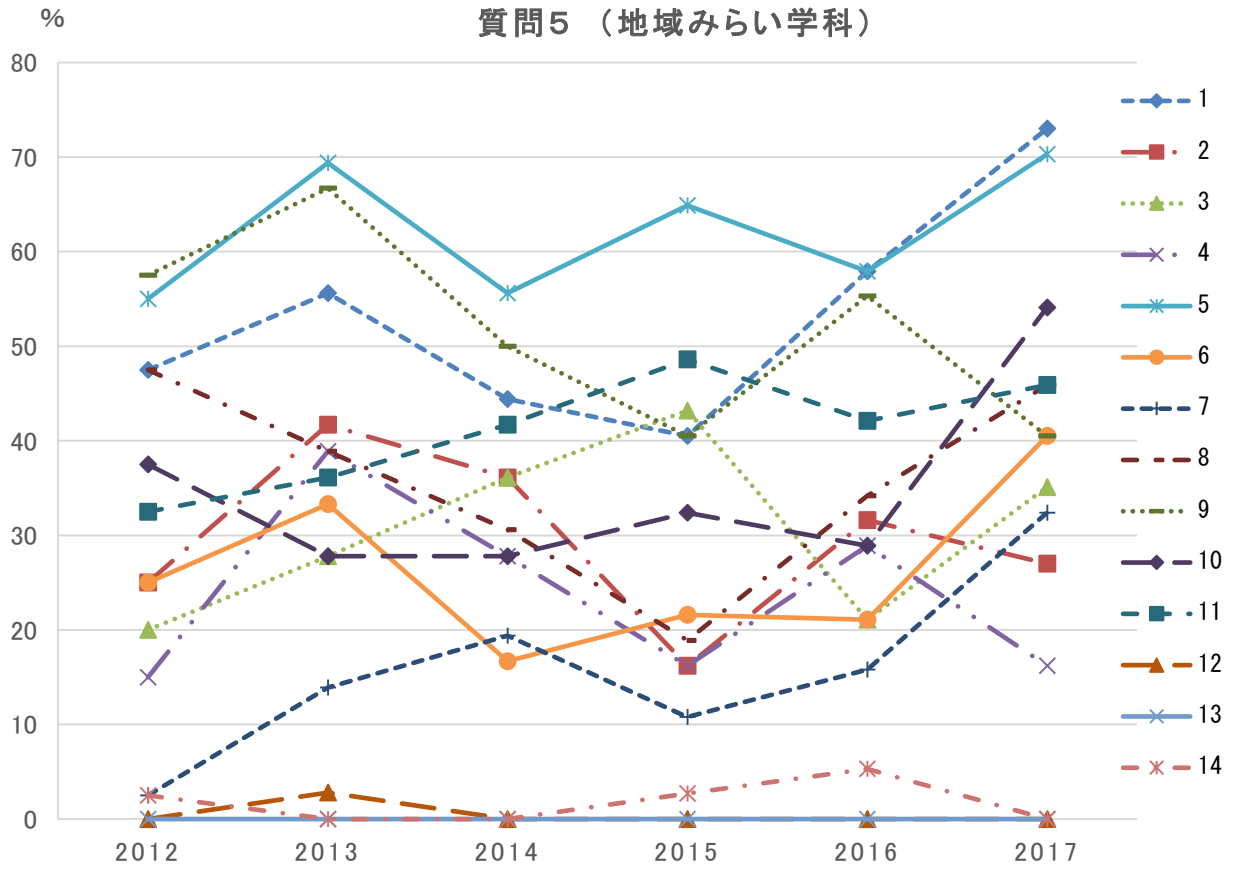
- 1：社会の一員としての自覚をもち、地域社会と積極的に関わるようになった。
- 2：「生きること＝学ぶこと」が理解でき、生涯にわたって学びをつづける姿勢が身についた。
- 3：創造的な発想力が養われた。
- 4：真実を探るための批判的思考力が高まった。
- 5：他人との協調性が高まった。
- 6：既成概念にとらわれず挑戦する柔軟な心が養われた。
- 7：公德心や倫理観が高まった。
- 8：学んだことを他者や社会へ役立てようとするようになった。
- 9：自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった。
- 10：社会的責任を踏まえた行動力が養われた。
- 11：生活面での自己管理能力が向上した。
- 12：特に成長したとは思わない。
- 13：その他
- 14：わからない。



2017年度についても、これまでの年度と同様に、「5：他人との協調性が高まった。(回答率 54.7%)」、「9：自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった。(回答率 48.1%)」という回答が多く、他者との関わりやコミュニケーションに関する点で成長できたと感じているようである。



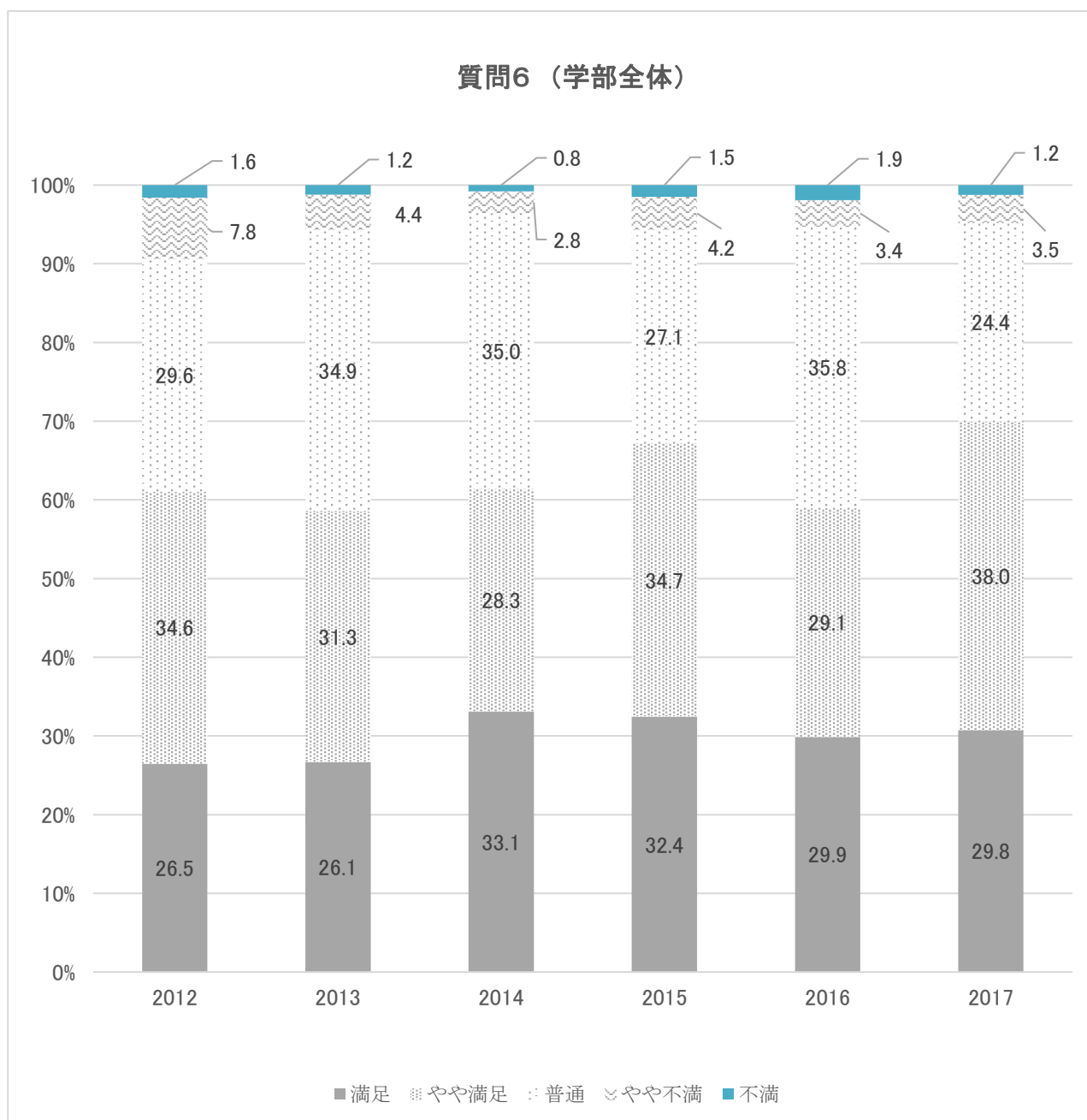
質問5 (地域みらい学科)



質問6 学修以外の学生生活（課外活動、福利厚生など）に関し、全般的な満足度はいかがでしたか。  
 あてはまる箇所に○をつけてください。

【選択肢】

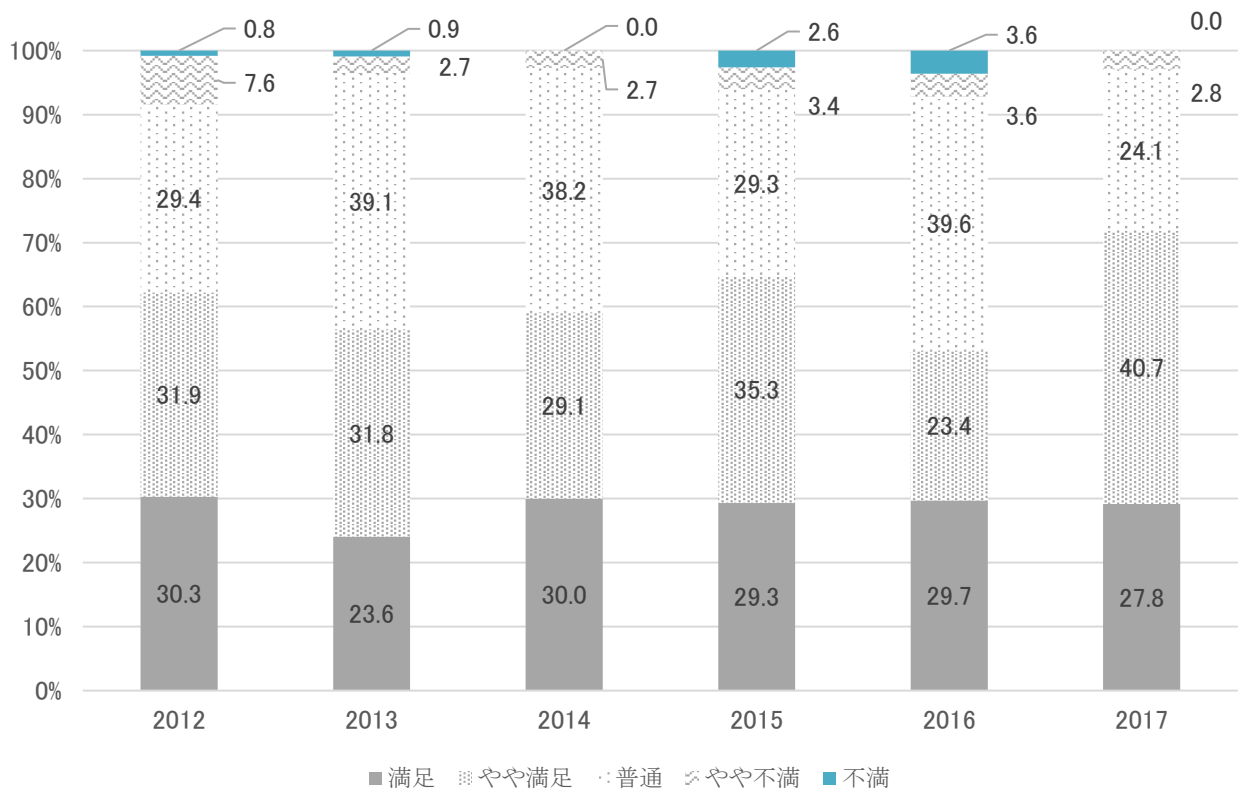
- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満



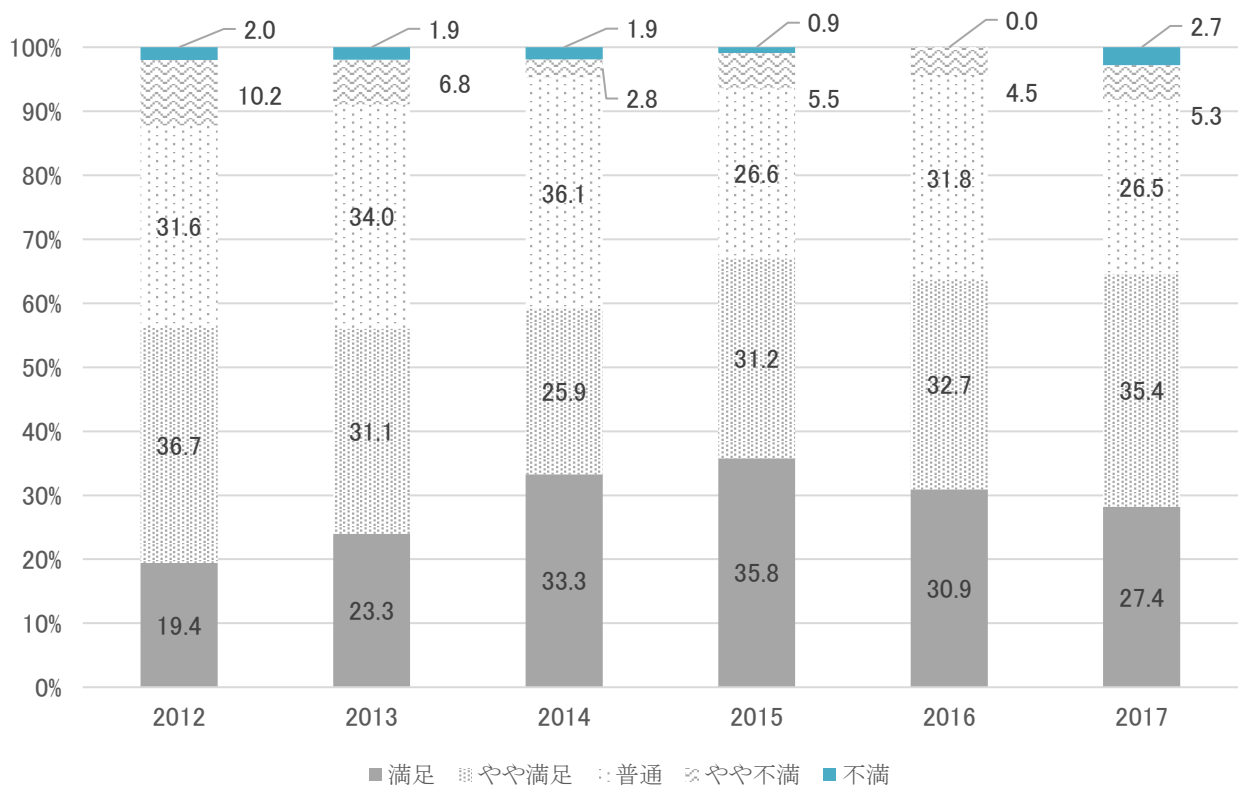
2017年度は、「満足」と回答した卒業生の割合が29.8%であり、2016年度並みであったが、「やや満足」と回答した卒業生もあわせると67.8%であり、6年間で最も高い数値となった。



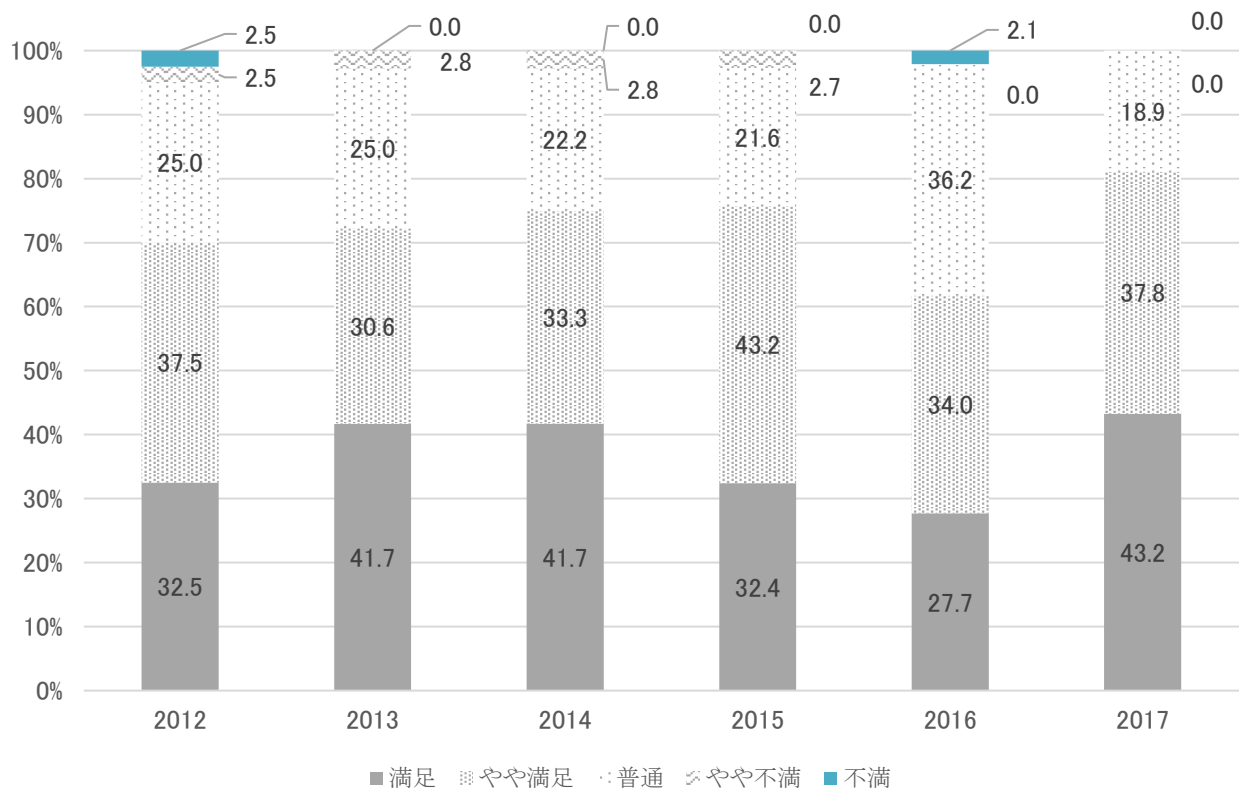
質問6（経営学科）



質問6（経済学科）



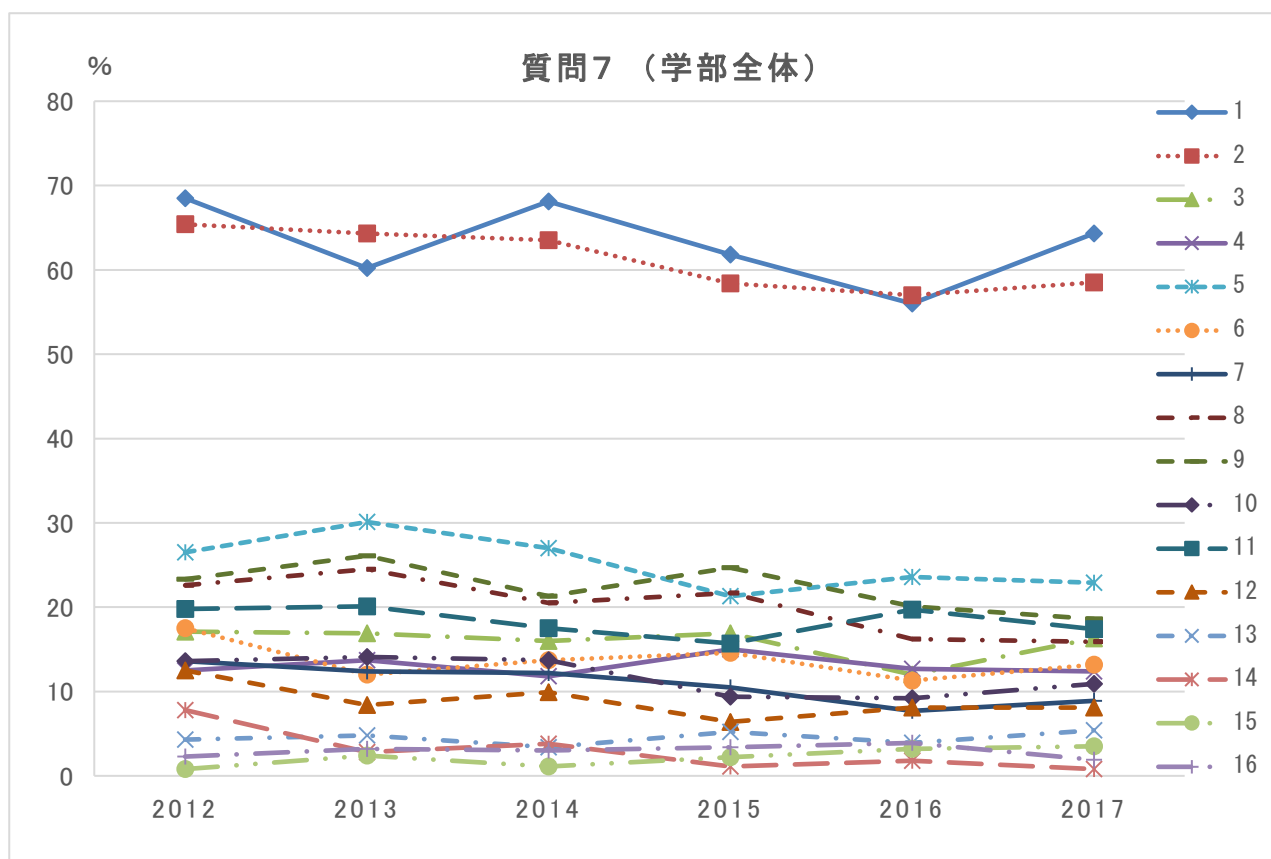
### 質問6 (地域みらい学科)



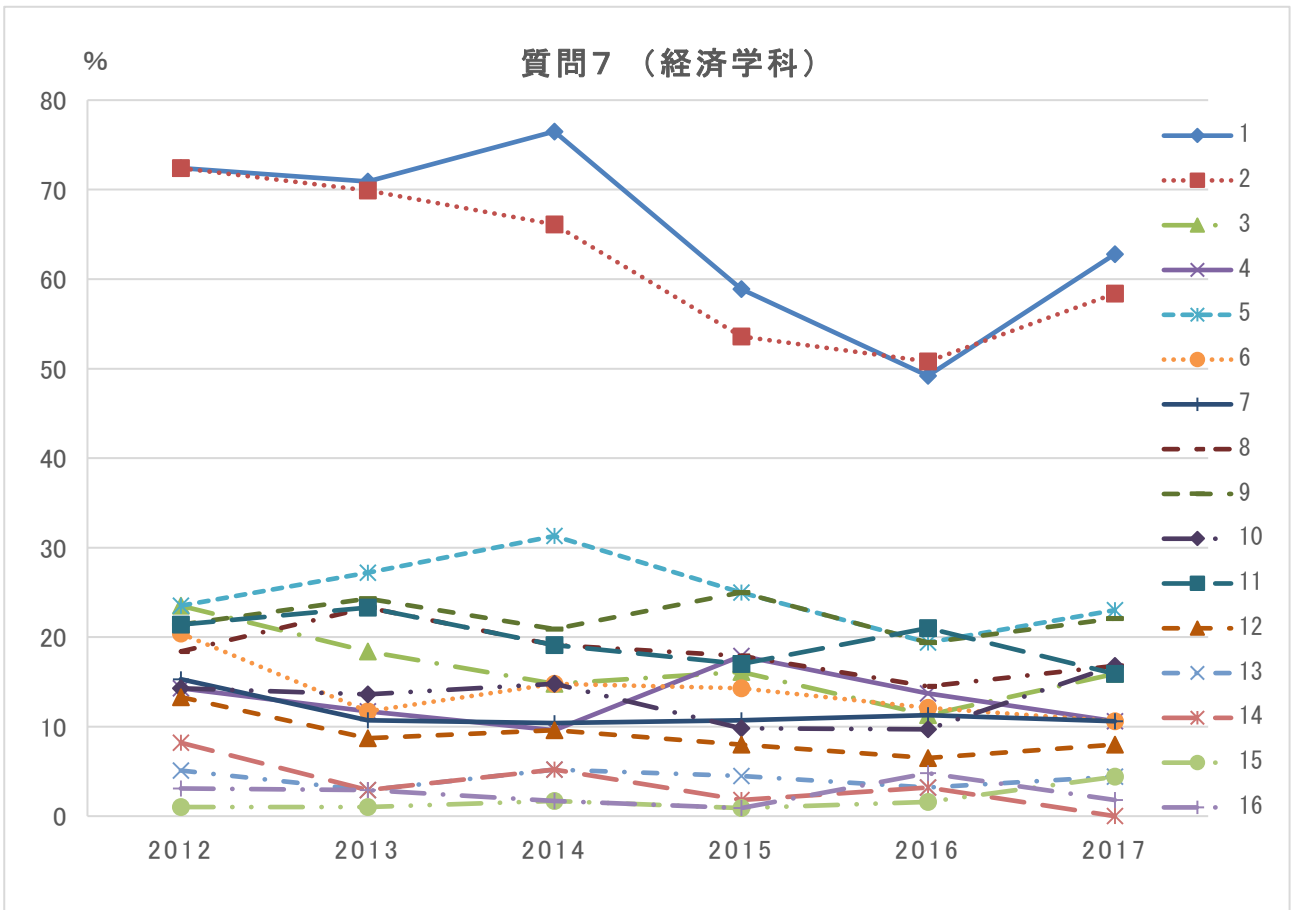
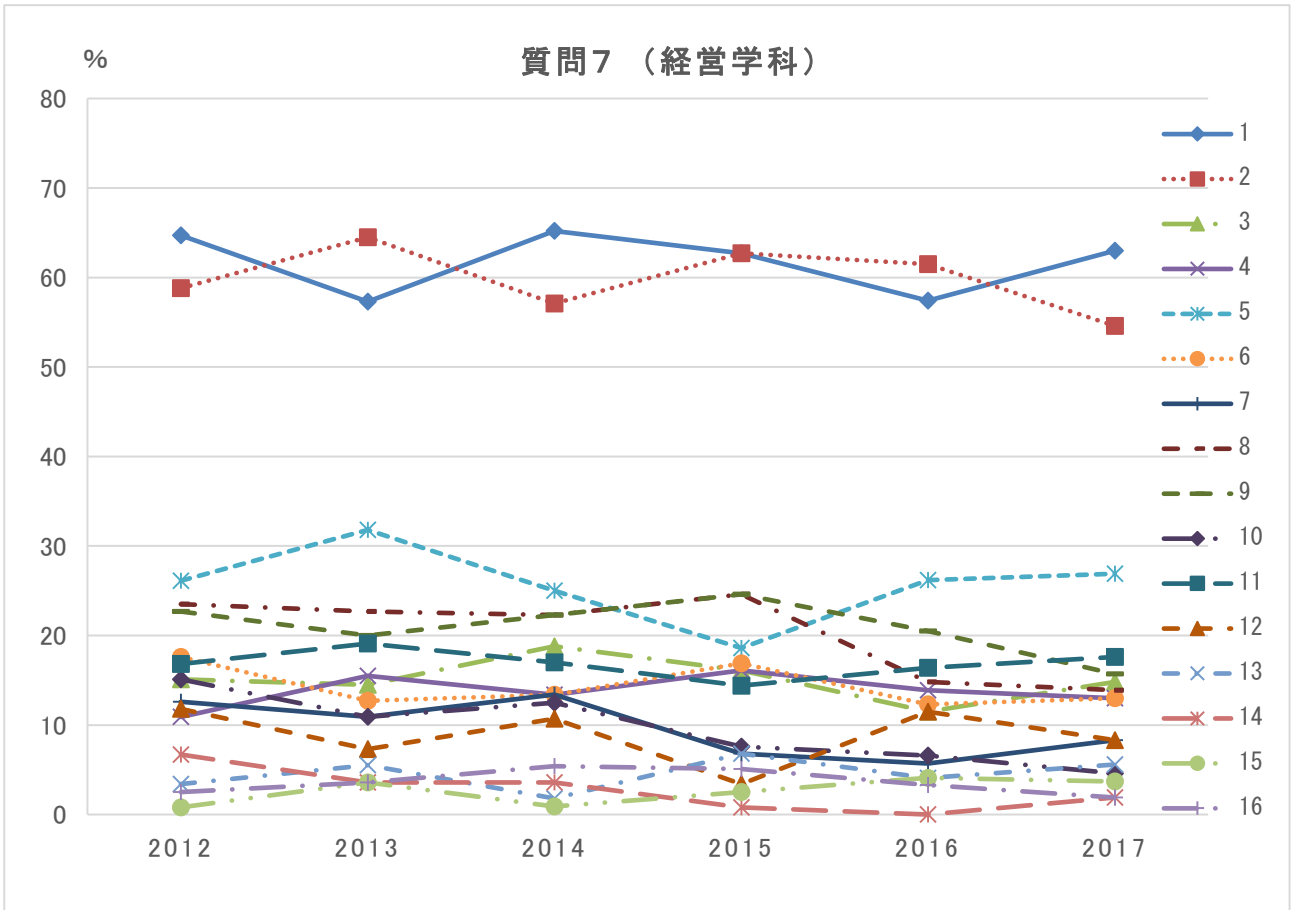
質問7 学生生活および関連設備に関し、青森公立大学はどの分野、どの支援を充実させることが望ましいと思われますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

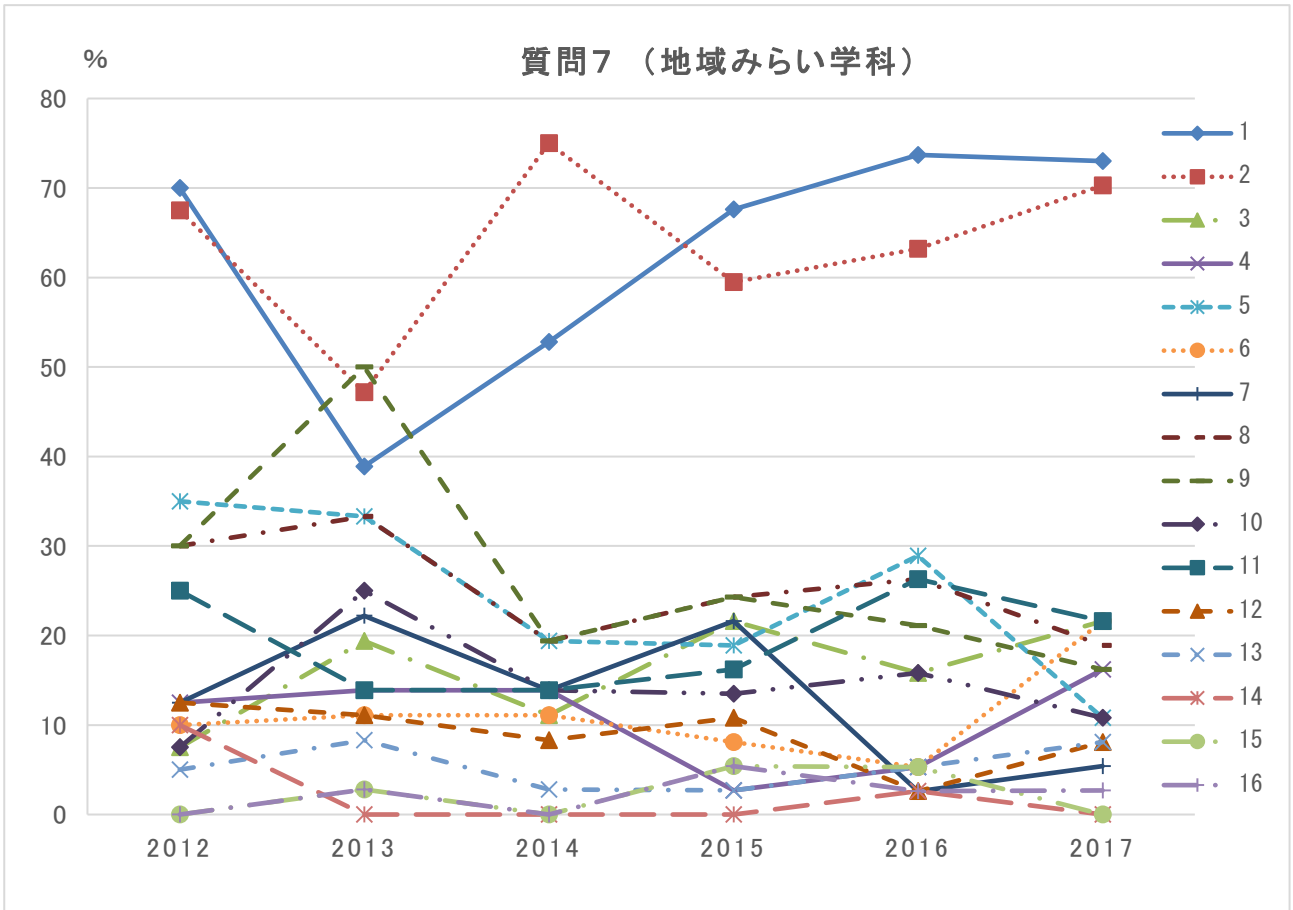
【選択肢】

- 1：食堂
- 2：売店
- 3：その他の福利厚生施設（学生交流施設など）
- 4：育英・奨学制度
- 5：スポーツに関連した部活・サークル活動
- 6：文化や研究など、スポーツ以外の部活・サークル活動
- 7：外部の人による講演
- 8：国際交流
- 9：他大学との学生交流
- 10：ボランティア活動
- 11：アルバイト情報
- 12：学生生活支援に関するアドバイザー制度
- 13：メンタルヘルス相談やハラスメント相談など、相談支援体制
- 14：同窓会
- 15：その他
- 16：わからない。



2017年度についても、これまでの年度と同様に、「1:食堂(回答率64.3%)」、「2:売店(回答率58.5%)」の充実を望む回答が半数を超えていることから、食堂・売店に対する満足度は決して高くないと言える。

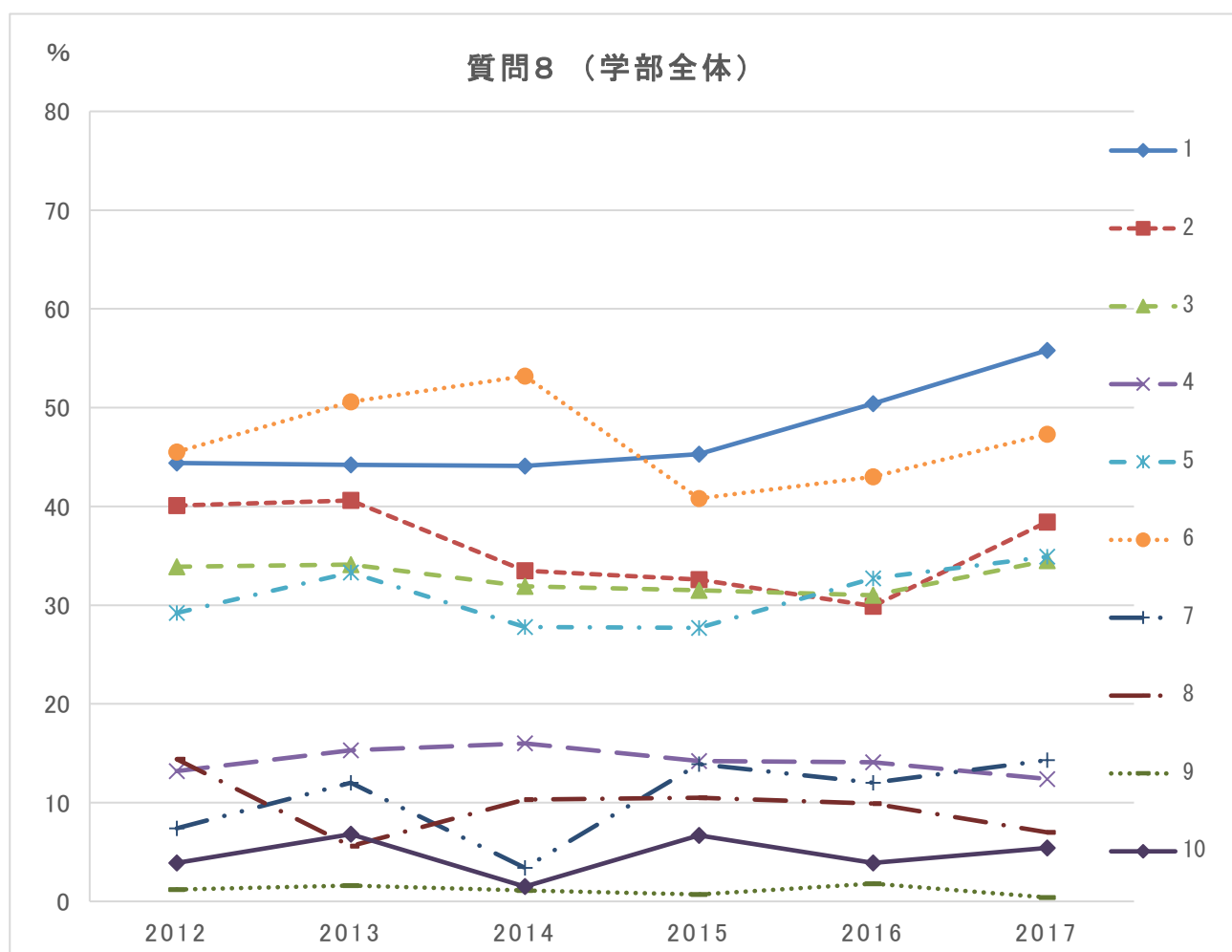




質問8 就職活動や就業体験などに関し、本学のキャリア形成支援を振り返り、役立った項目を選んでください。あてはまるもの全てに○をつけてください。

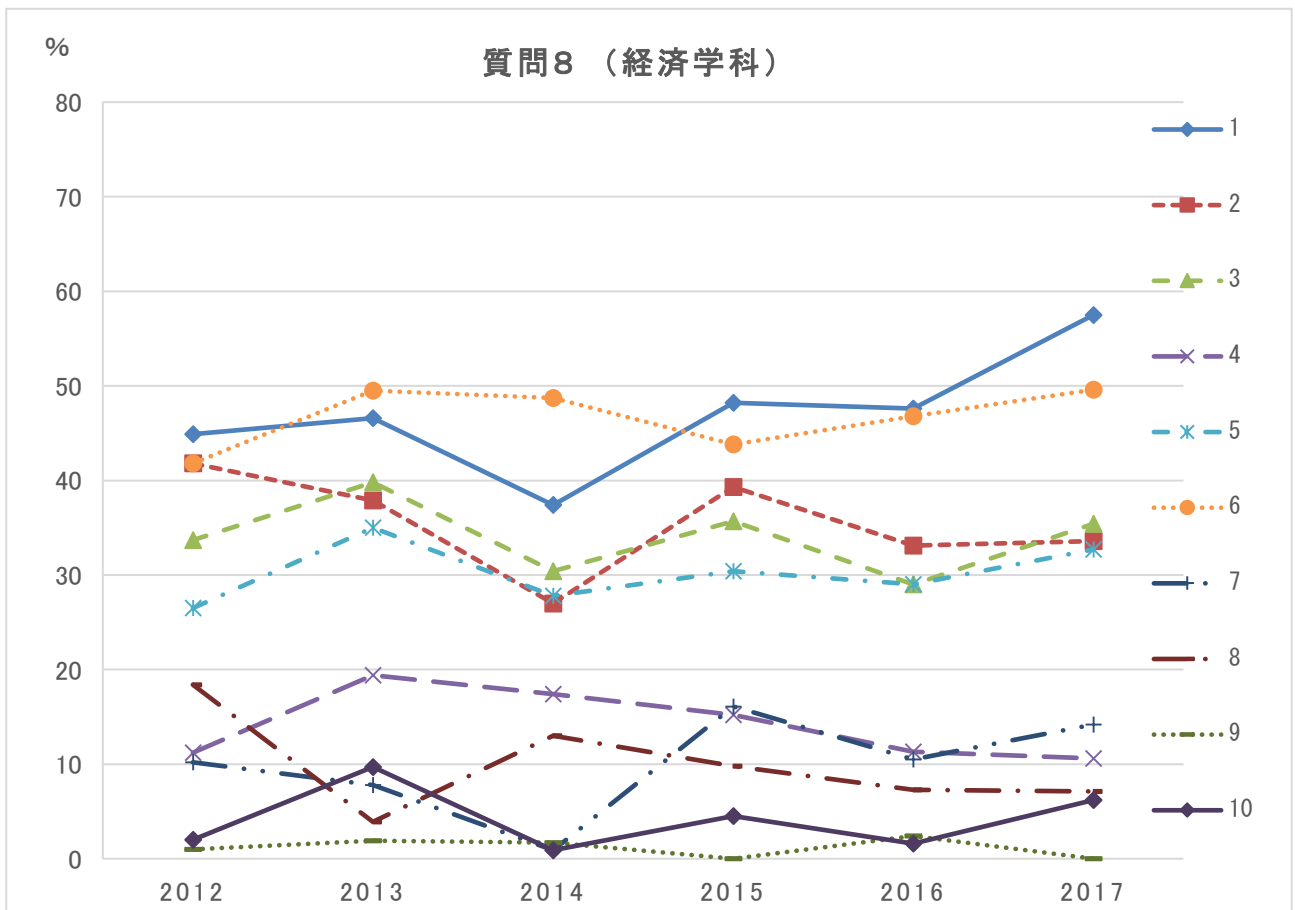
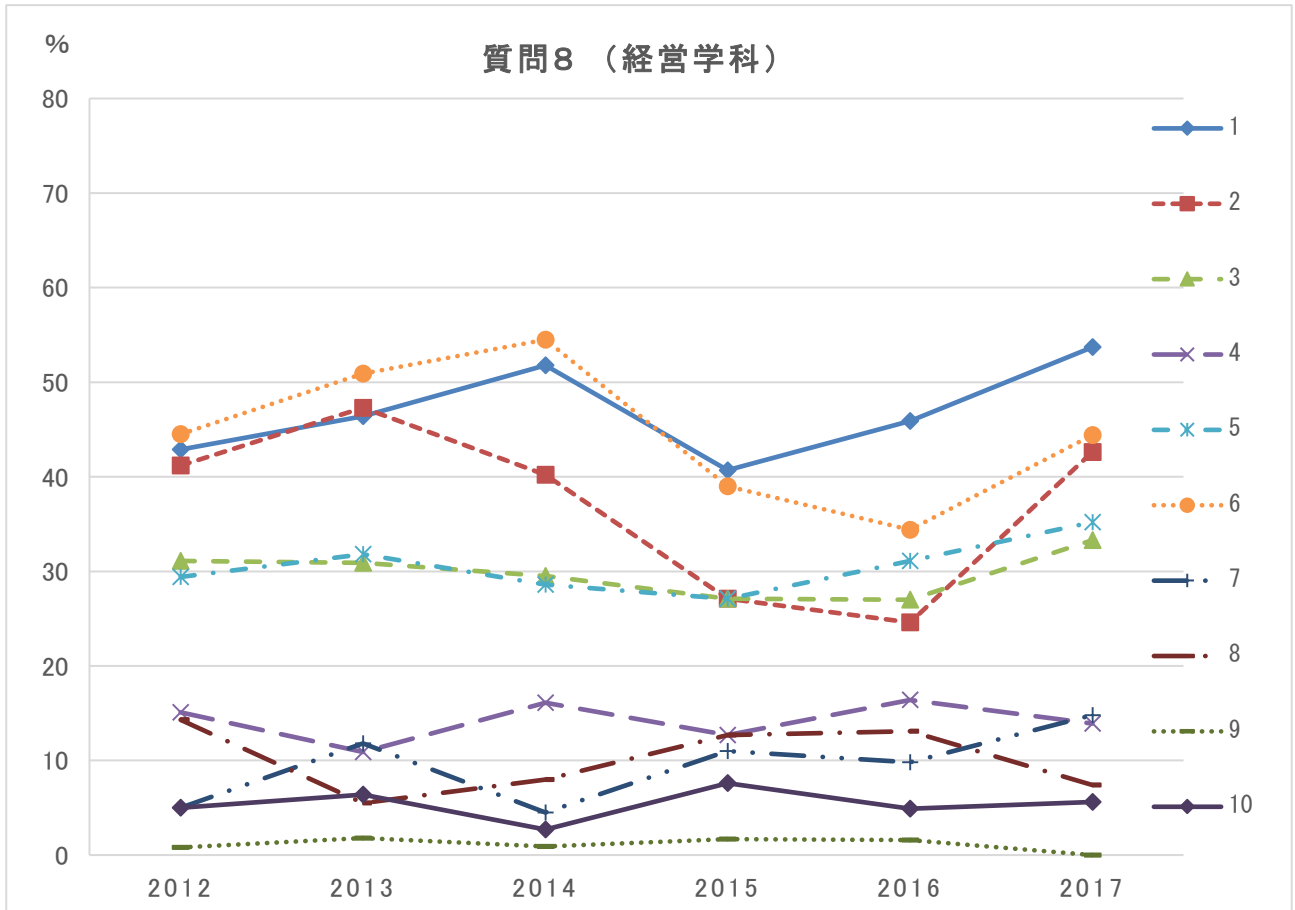
【選択肢】

- 1：相談員からのアドバイス
- 2：求人情報や企業情報
- 3：面接トレーニング
- 4：キャリア教育科目・講座
- 5：就職ガイダンス
- 6：企業説明会
- 7：インターンシップ
- 8：特に役立ったものはなかった。
- 9：その他
- 10：わからない。

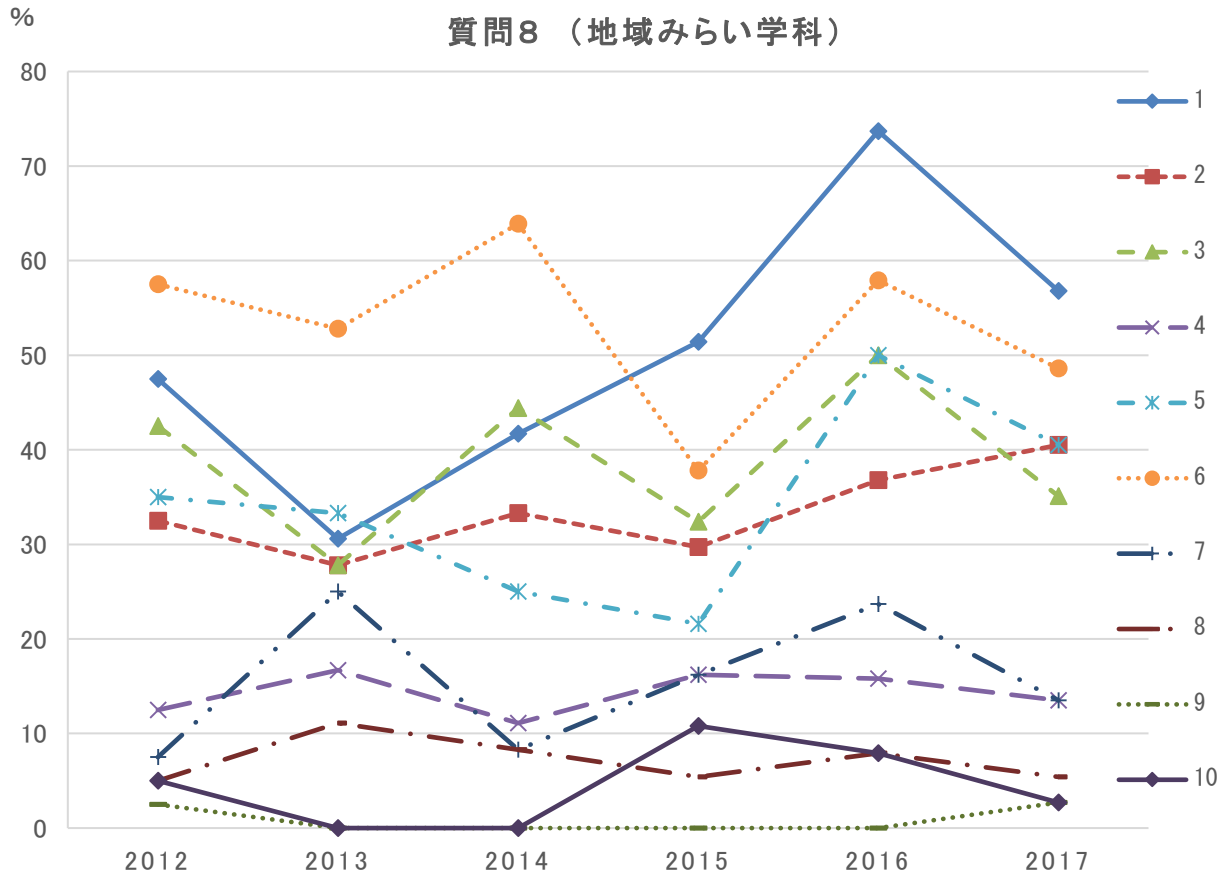


2017年度についても、これまでの年度と同様に、「1：相談員からのアドバイス（回答率 55.8%）」、「6：企業説明会（回答率 47.3%）」が、就職活動において役に立ったという回答が多かった。特に、「1：相談員からのアドバイス」については、増加傾向にあり、6年間で最も高い数値となった。

その一方で、「8：特に役立ったものはなかった（回答率 7.0%）」、「10：わからない（回答率 5.4%）」という否定的な回答もあった。



質問8 (地域みらい学科)

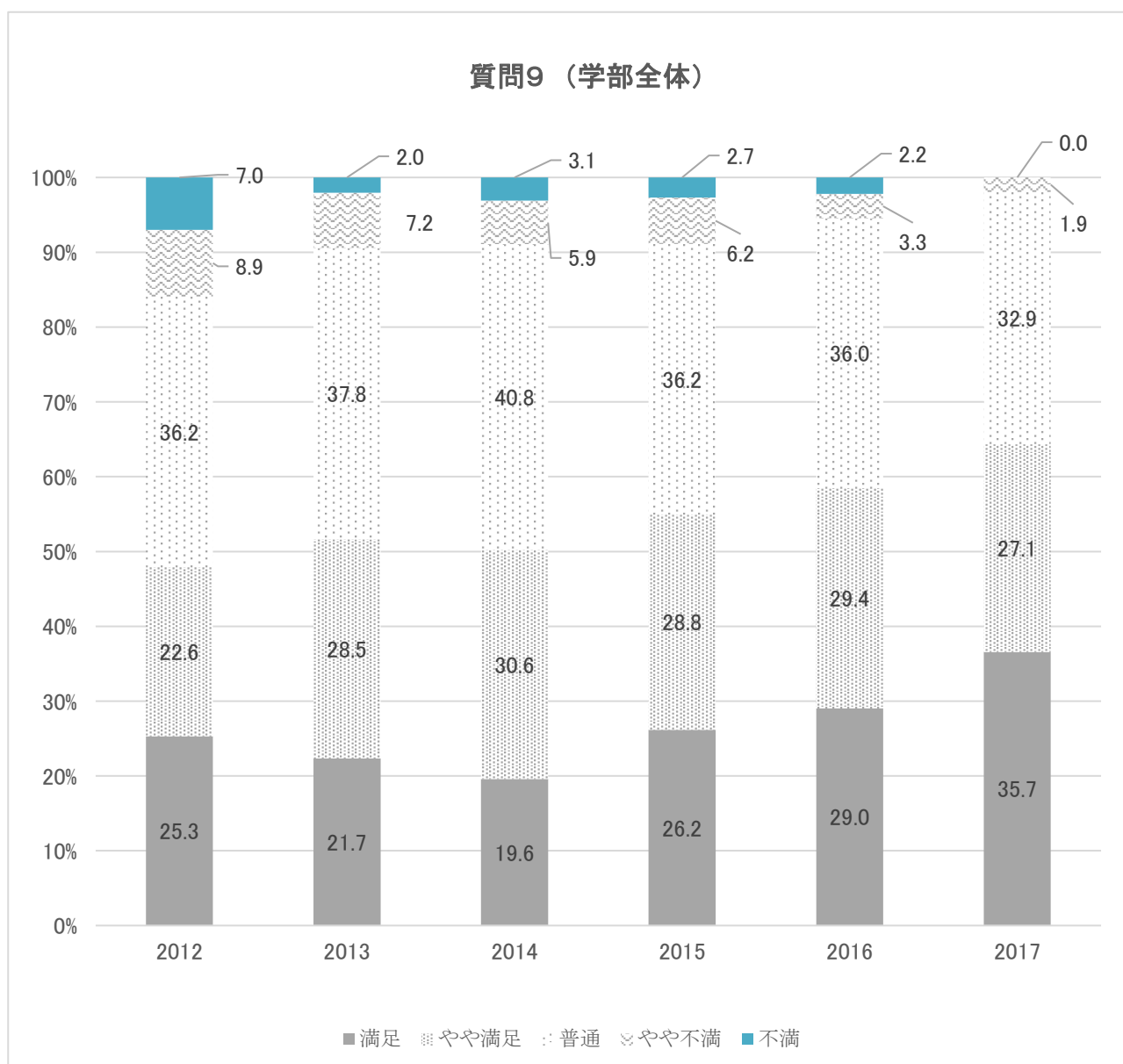




質問9 本学のキャリア形成支援を振り返り、全般的な満足度はいかがでしたか。あてはまる箇所に○をつけてください。

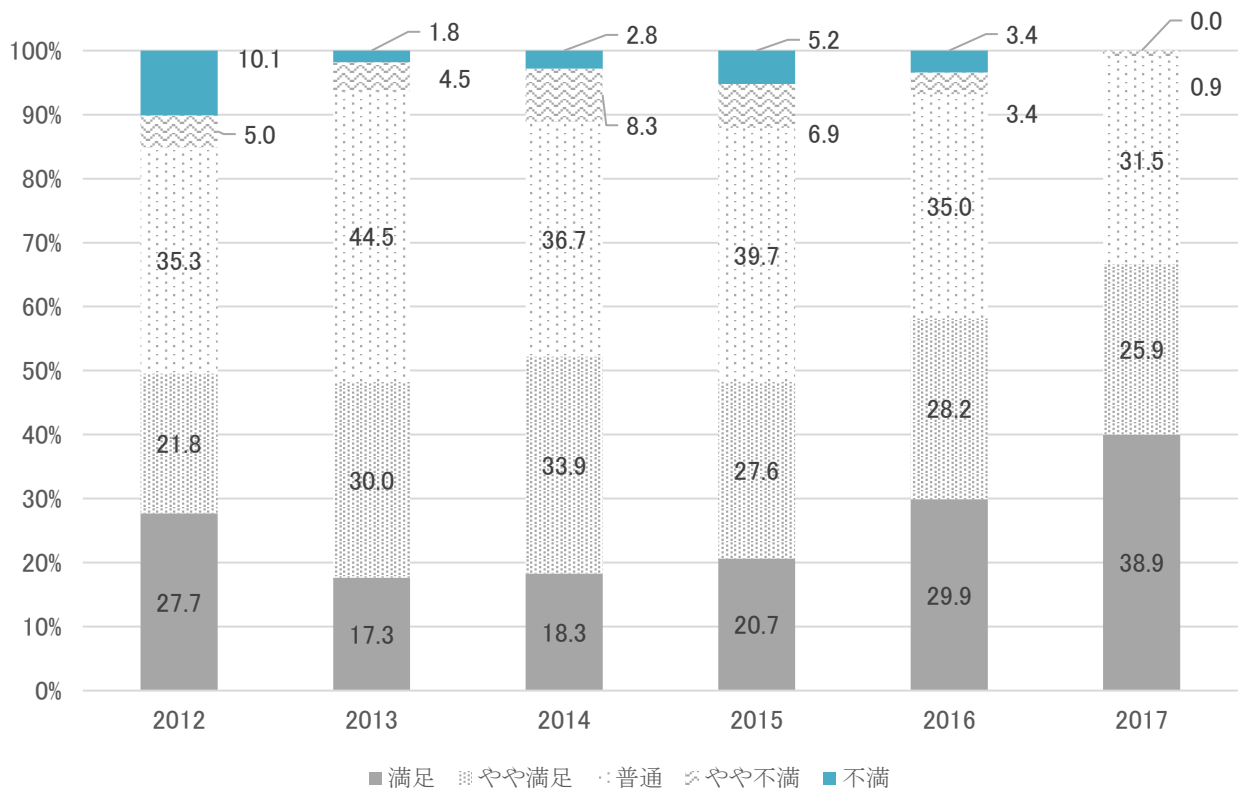
【選択肢】

- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満

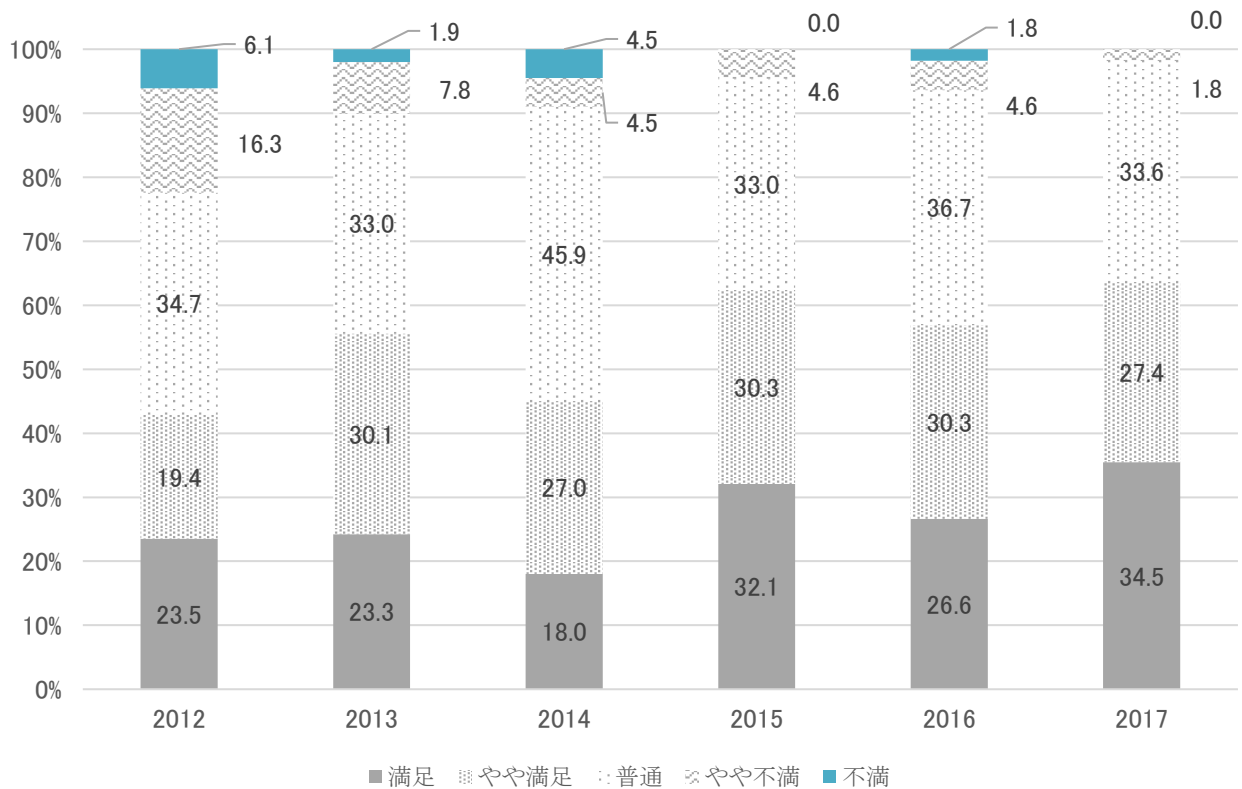


2017年度は、「満足」と回答した卒業生の割合が35.7%であり、6年間で最も高い数値となった。また、「やや満足」と回答した卒業生もあわせると62.8%であり、6年間で最も高い数値で、多くの卒業生が満足しているという良好な結果が得られた。また、「やや不満」「不満」と回答した卒業生も5.4%と、6年間で最も低い数値となった。このことから、本学のキャリア形成支援に対する卒業生の満足度は年々高くなっていると言える。

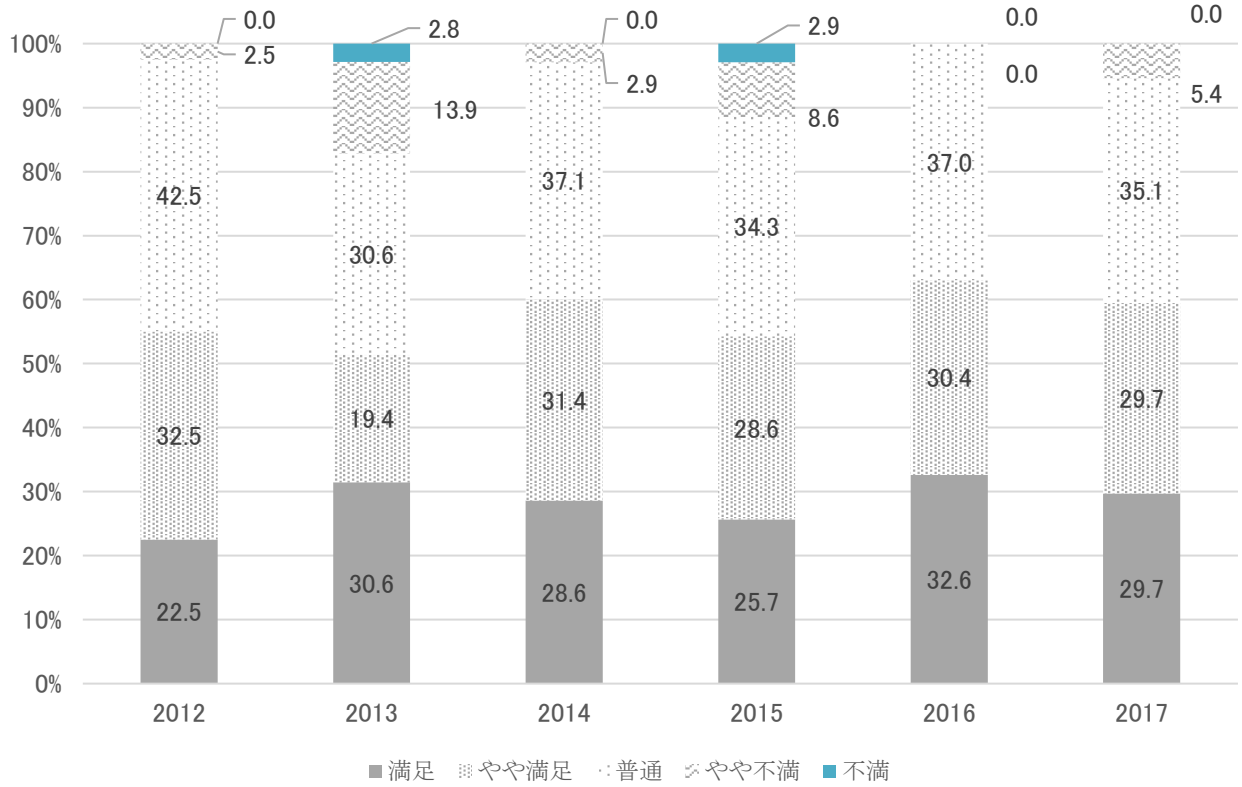
質問9（経営学科）



質問9（経済学科）



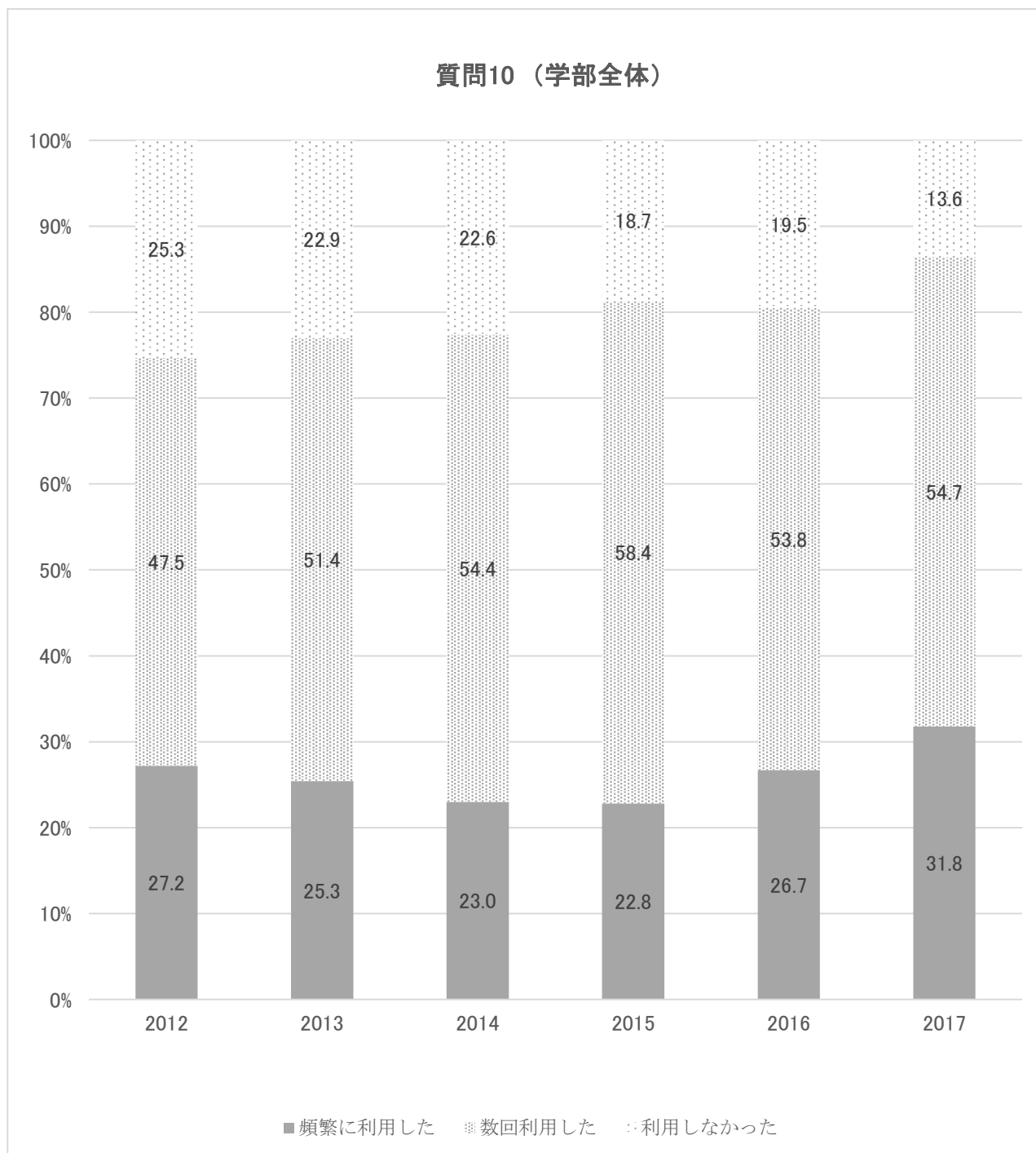
### 質問9（地域みらい学科）



質問10 キャリアセンターの利用に関し、あなたはどれくらい利用しましたか。

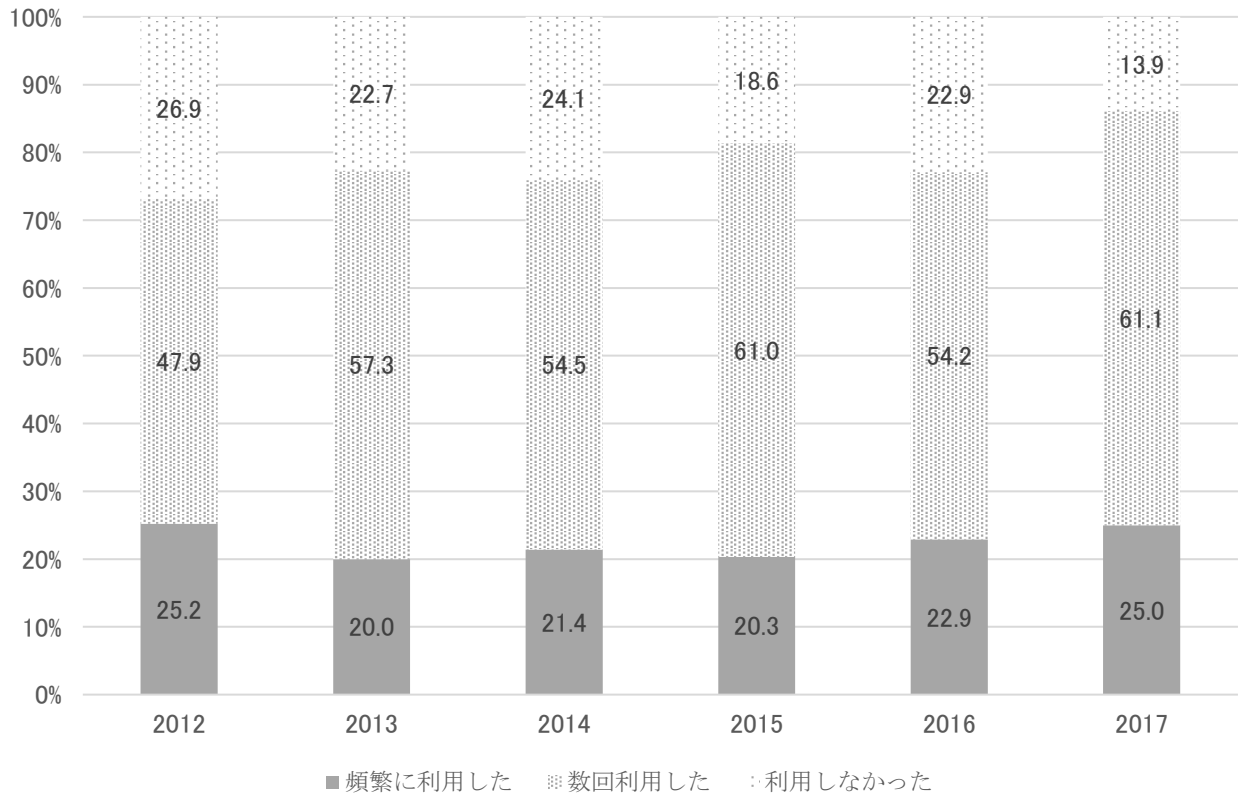
【選択肢】

- 1：頻繁に利用した。
- 2：数回利用した。
- 3：利用しなかった。

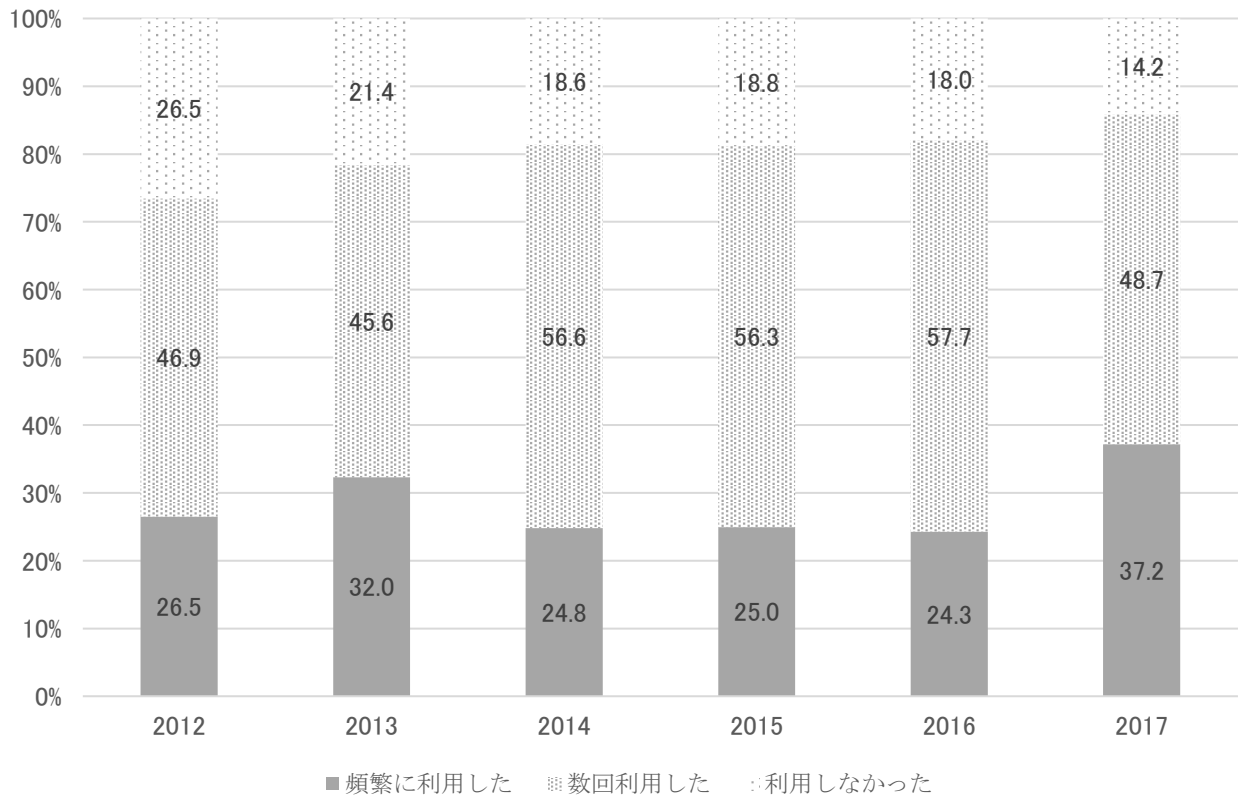


2017年度は、「頻繁に利用した」と回答した卒業生の割合が31.8%であり、6年間で最も高い数値となった。また、「利用しなかった」と回答した卒業生は13.6%であり、6年間で最も低い数値となった。

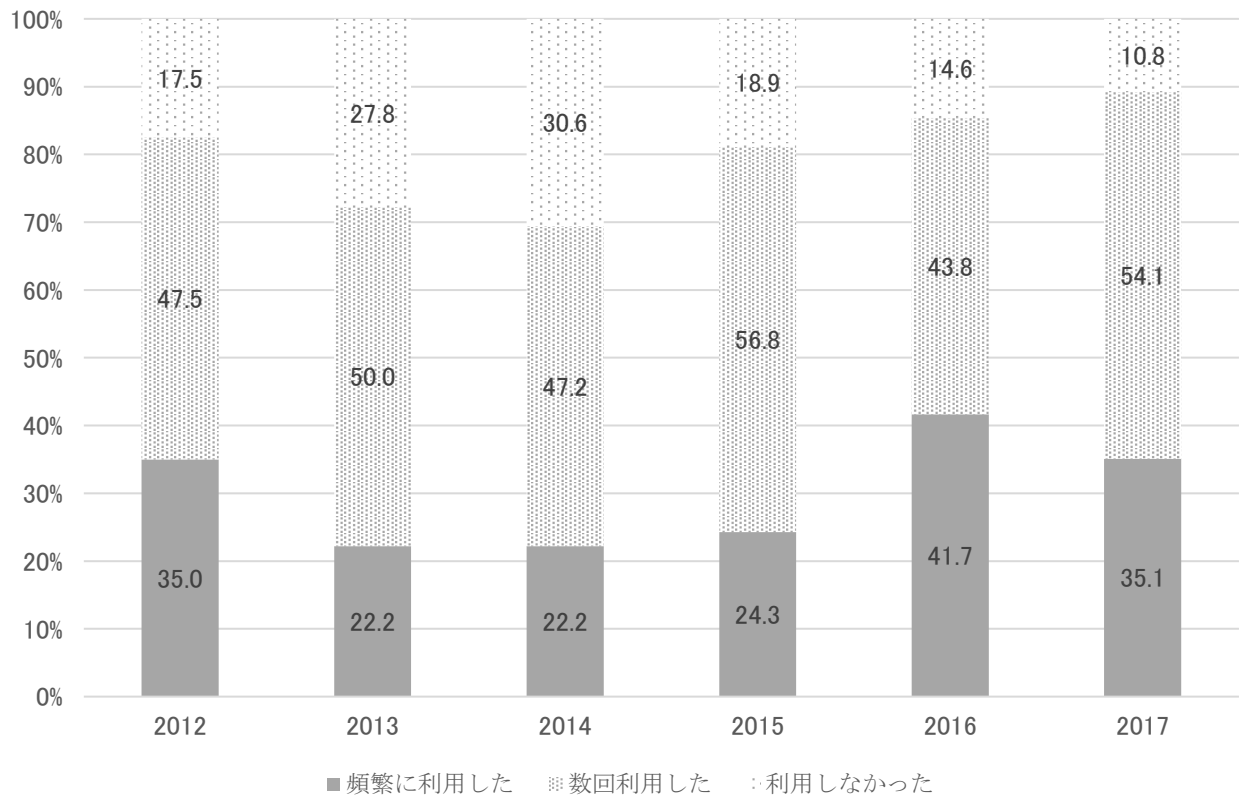
質問10（経営学科）



質問10（経済学科）



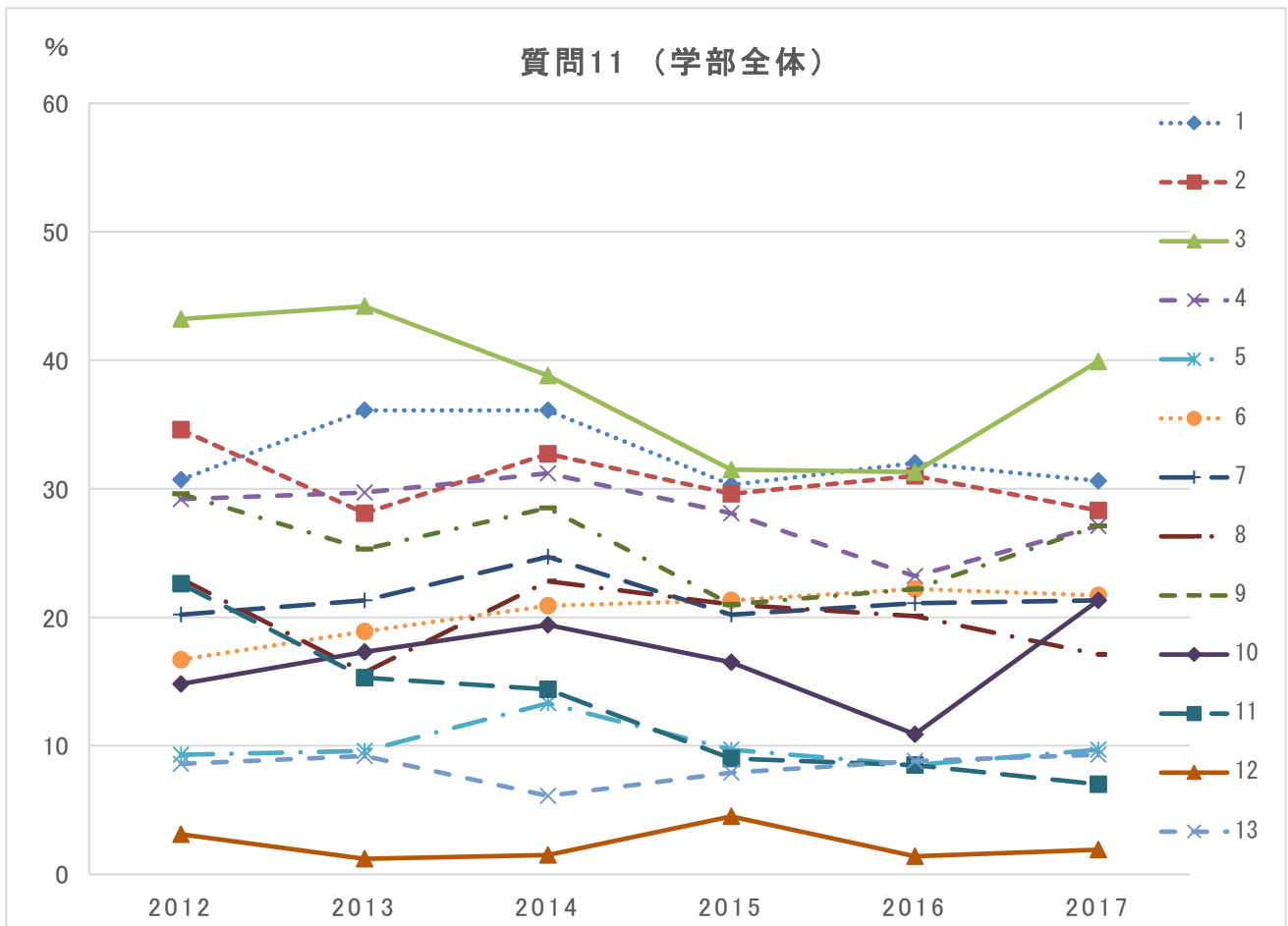
質問10（地域みらい学科）



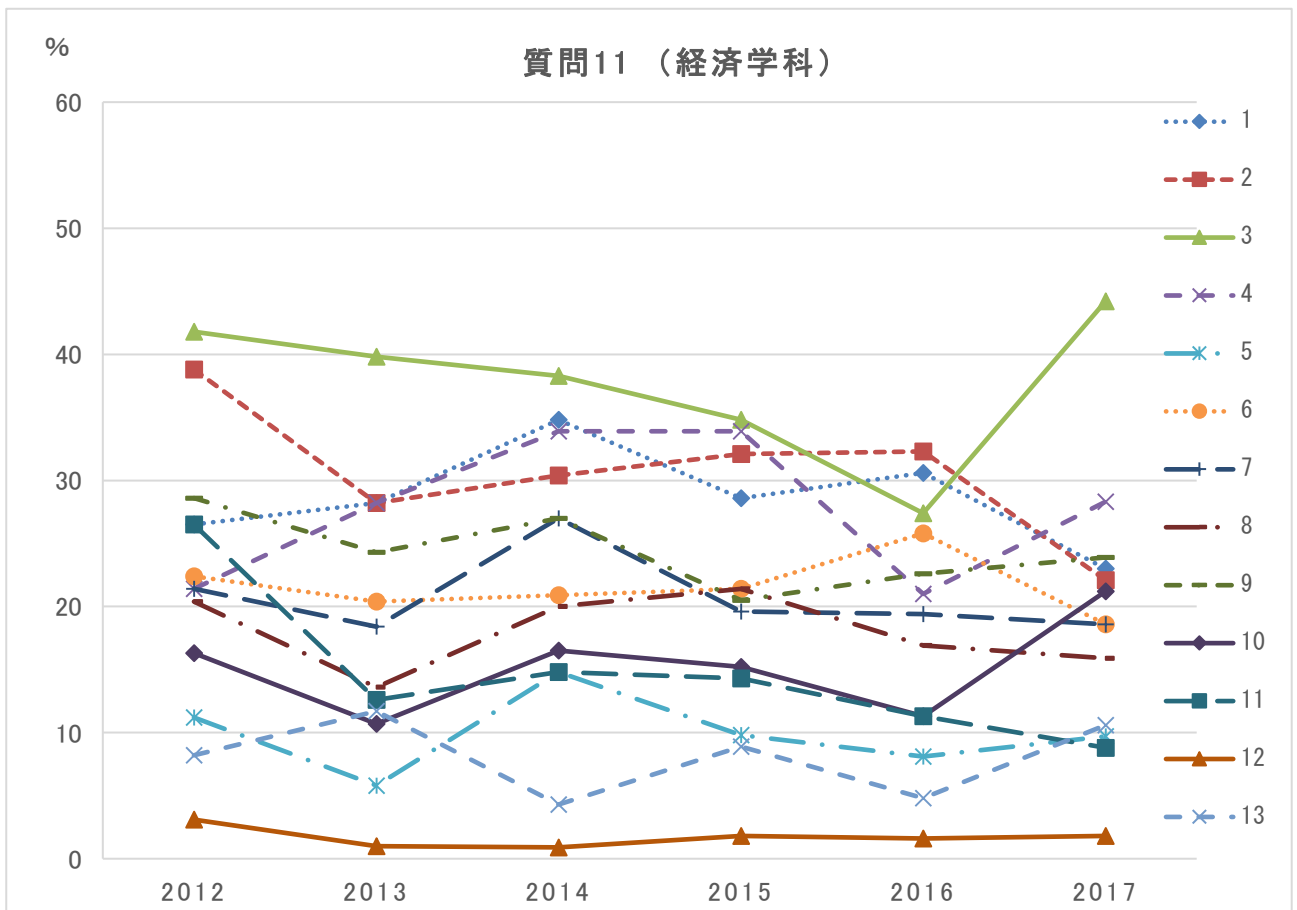
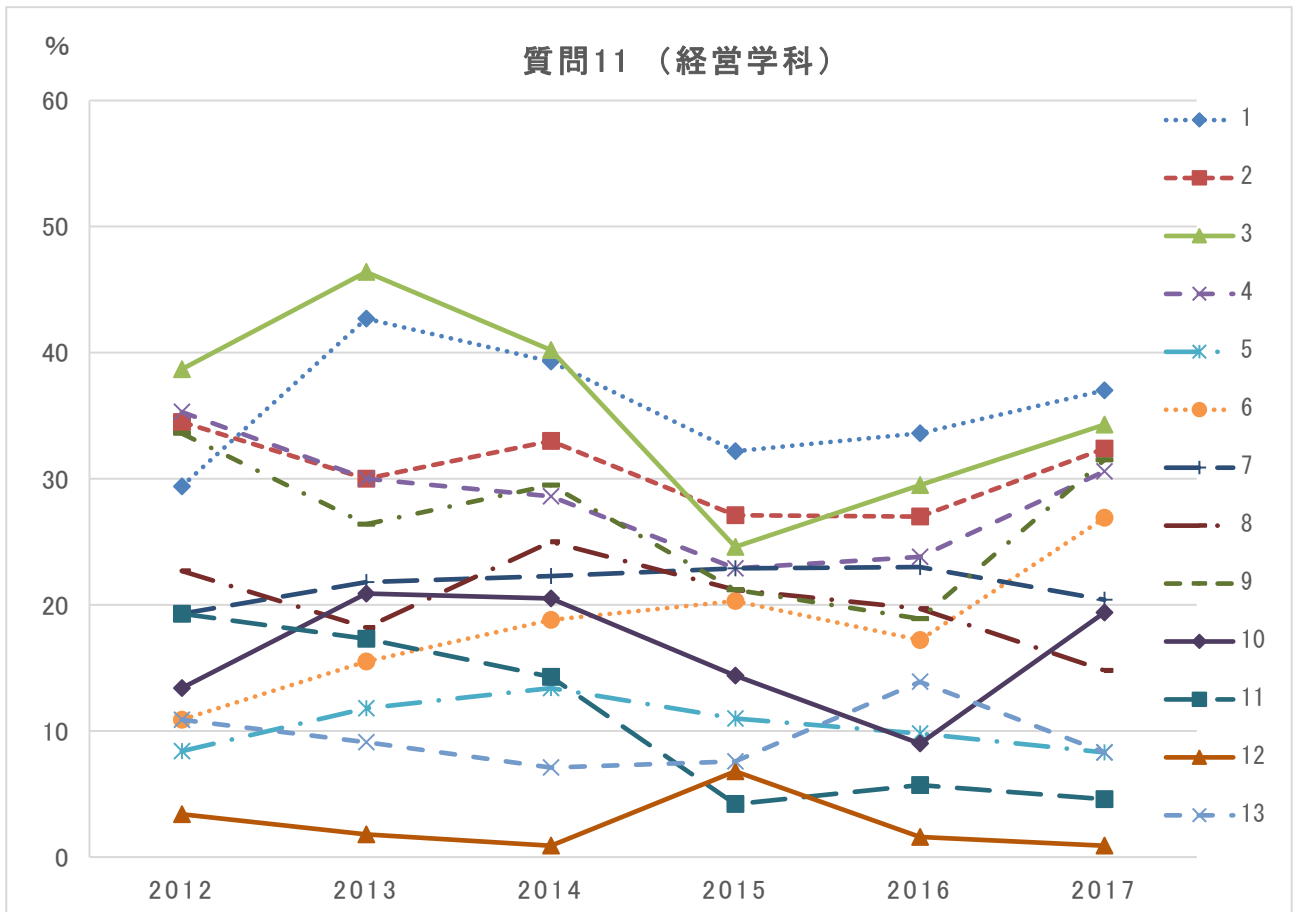
質問 1 1 キャリア形成関連に関し、青森公立大学はどの分野、どの支援を充実させることが望ましいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【選択肢】

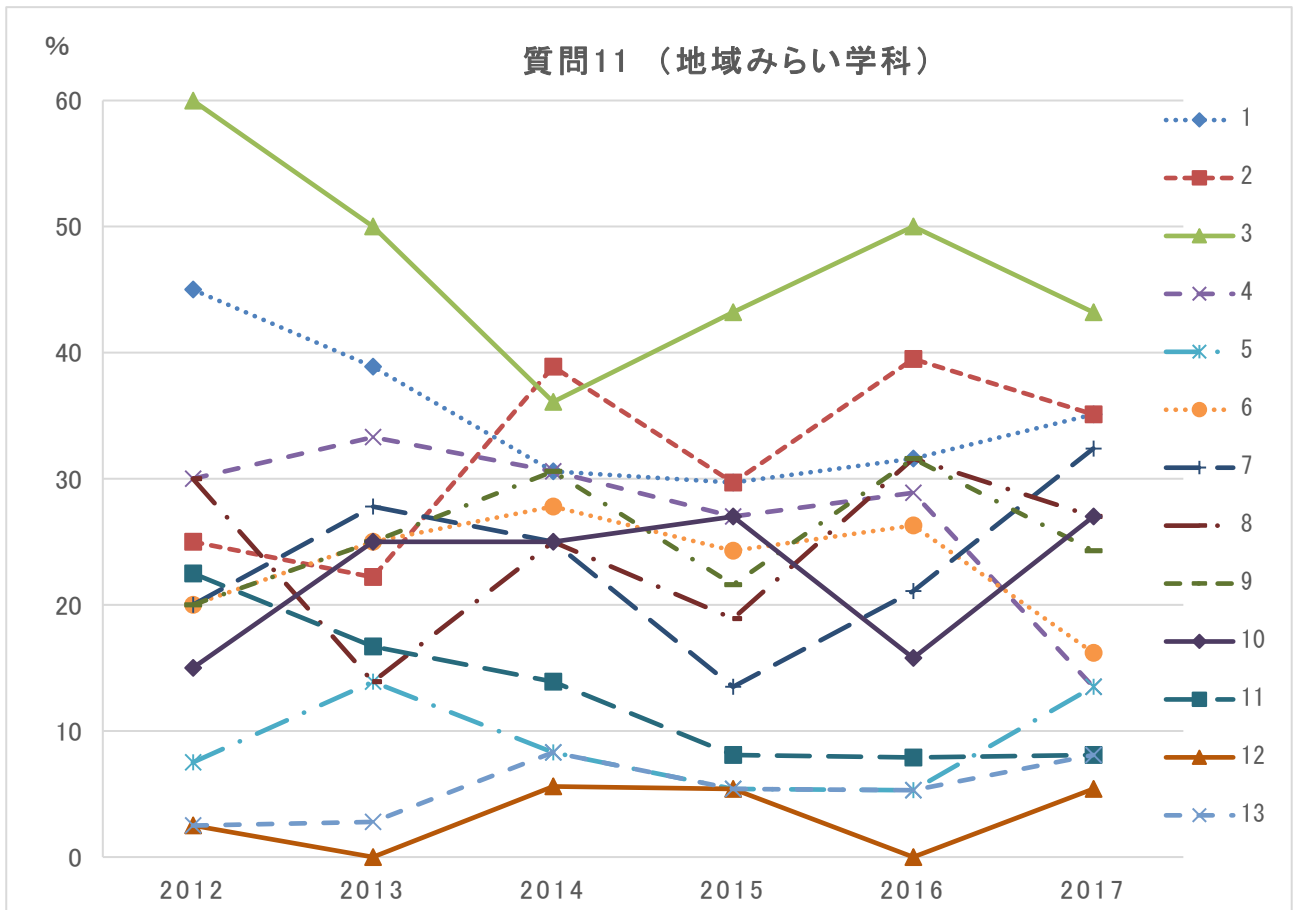
- 1：相談員からのアドバイス
- 2：求人情報や企業情報
- 3：OB との交流会
- 4：面接トレーニング
- 5：キャリア教育科目・講座
- 6：職業適性検査の支援
- 7：就職ガイダンス
- 8：業界ガイダンス
- 9：企業説明会
- 10：インターンシップ
- 11：公務員講座
- 12：その他
- 13：わからない。



2017年度は、「3：OB との交流会（回答率 39.9%）」、「1：相談員からアドバイス（回答率 30.6%）」が 30%を超える回答であった。また、「3：OB との交流会」、「10：インターンシップ」は、2016年度より回答する卒業生の割合が大きく増加している。







#### 4. データ解釈にあたっての覚え書

以上の図は、卒業アンケートの結果を時系列での性質に注目して分析する、という問題意識にもとづいて、各項目の回答の推移をグラフにしたものである。時系列でデータを吟味することで、回答の「一時的な変動」と「安定的な傾向」とを識別しやすくなることが期待される。以下にこれらのグラフから見て取れる幾つの特徴と、その解釈にあたっての留意点を記す。

まず、グラフからは、年毎の変動が大きいことがわかる。また、増減をジグザグに繰り返している系列が多い。（2年毎の増減を示すものもある。）一定の平均の周りで増減を繰り返す系列は、統計学でいうところの平均への回帰（regression to the mean）の一例である可能性がある。すなわち、平均が安定的である限り、ある時に平均を上回って増加したら、次は平均を下回って減少する可能性が高い。

したがって解釈にあたっては、ある年に起きた一見大きな増加あるいは減少について、一喜一憂するのは生産的ではない。むしろ、回答の傾向を読み取るにあたっては、変動の幅にかかわらず、系列が一定の平均周りで変動しているようであればその平均値に着目したい。あるいは、右上がりまたは右下がりの単調なトレンドが見て取れるならば、その趨勢を把握することが重要であろう。

なお、3学科の中では、地域みらい学科の回答の時系列での変動がもっとも大きいことが、グラフから見て取れる。この事実を説明する一つの仮説は、地域みらい学科は回答者が少ない（経営学科、経済学科の約1/3）ためだ、というものである。一般に、標本サイズが小さいほど、特定の指標の標本毎のばらつきは大きくなるためである。

次に、各年度についてあてはまる注意点に触れたい。一般的に、多項選択形式の集計結果の解釈は注意して行わなければならない。とくに、どの分野の支援を充実させるのが望ましいかをたずねている質問4、質問7、質問11については、質問文が多義的な文章となっているため解釈が難しい。すな

わち、これらの質問項目の回答には、内容が良かったからさらに充実させるべきなのか、あるいは内容が良くないからもっと充実させてほしいのか、という両方の可能性がある。したがって、これらの結果を解釈するには、他の質問項目の回答傾向や自由回答の記述なども照らし合わせる必要がある。

このように、図を用いて回答の特徴に関する事実を把握することが第一の作業であるとする、第二の作業は、その因果関係について仮説をたてることである。回答を左右する要因には様々なものが考えられる。カリキュラム改正、教職員の数の変動、科目担当者の変更、学生の質の違い、同級生間の影響 (peer effect)、その他。このように因果関係について仮説を立てたならば、次の作業はその仮説の実証的な検証であろう。

ただし、因果関係に関する仮説を厳密にテストすることは通常、容易ではない。とくに、卒業アンケートの回答を規定する要因に関してデータを収集するためにはかなりの時間的・人的なコストがかかることが予想される。

以上